美浜町まちづくりアンケート

調　査　報　告　書

平成 24 年 3 月

美　　浜　　町

日本福祉大学福祉社会開発研究所
まちづくり研究センター

目　　次

調査の概要　1

１．回答者のフェースシート（基本属性）　2

２．生活環境評価　7

３．まちへの愛着　19

４．防災　24

５．まちづくりに対する意識　28

６．まちの将来像　36

まとめ　38

自由記述一覧　41

資料：美浜町まちづくりアンケート調査票

□　調査の概要

１．目的

今後の 12 年間にわたるまちづくりの基本的な方向を定める第５次美浜町総合計画を改定するに際して、町民の皆様の生活環境に対する評価や、まちづくりに対する考えをお聞きし、今後の施策立案に活用することを目的としている。

２．調査実施期間

平成23年11月16日から28日

３．調査対象者と回答者数

住民基本台帳を用いて、18歳以上の住民の中から無作為に2,100名を抽出した。

配布数	2,100	名
有効回答者数	909	名
有効回収率	43.3	%

４．調査方法

郵送配布、郵送回収

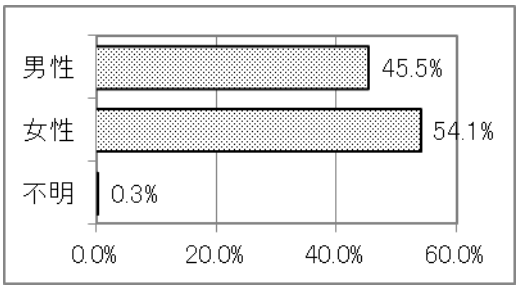
１．回答者のフェースシート（基本属性）

(1)　性別、年齢、職業

回答者の主な属性は以下のとおりである。

①　　性別

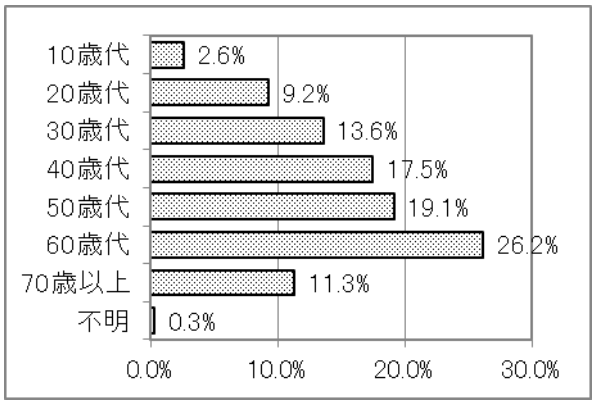
男性が全体の 45.5%であり、女性の比率がやや高い。



②　　年齢

全体の26.2%が60歳代であり、次いで、50 歳代が 191.1%である。

男女別にみた年齢別構成はほとんど差がない。

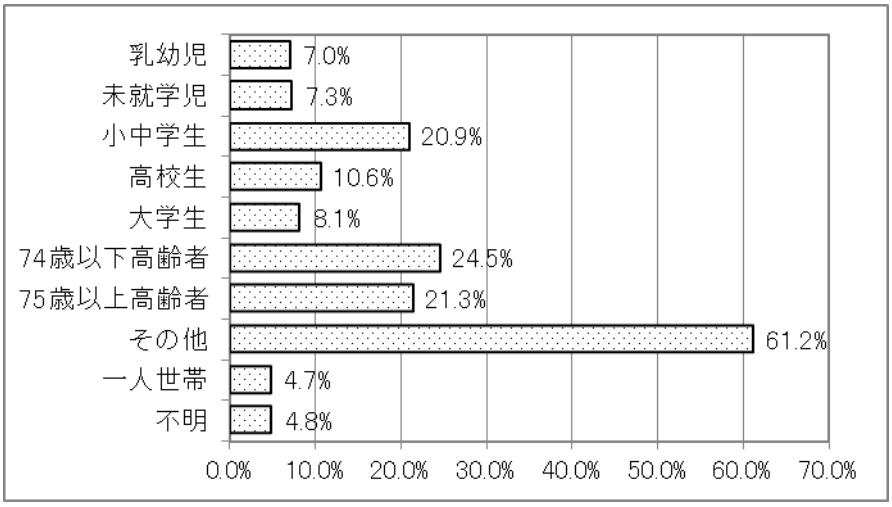


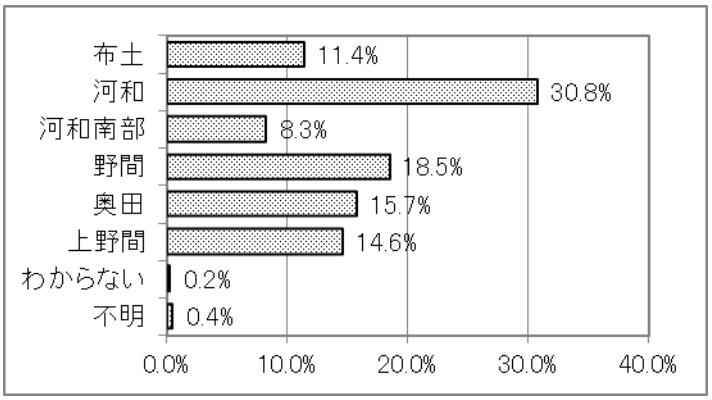
③　同居している家族（複数回答可）

「74 歳以下の高齢者」がおられる世帯が 24.5%、「75 歳以上の高齢者」がおられる世帯が 21.3%である。一方、「乳幼児」あるいは「未就学児」がおられる世帯は、それぞれ全体の数%にとどまっている。

④　居住地区

回答者の居住地区は、河和が全体の約 30%と最も多く、次いで、野間、奥田である。河和南部の居住者の比率はやや低い。



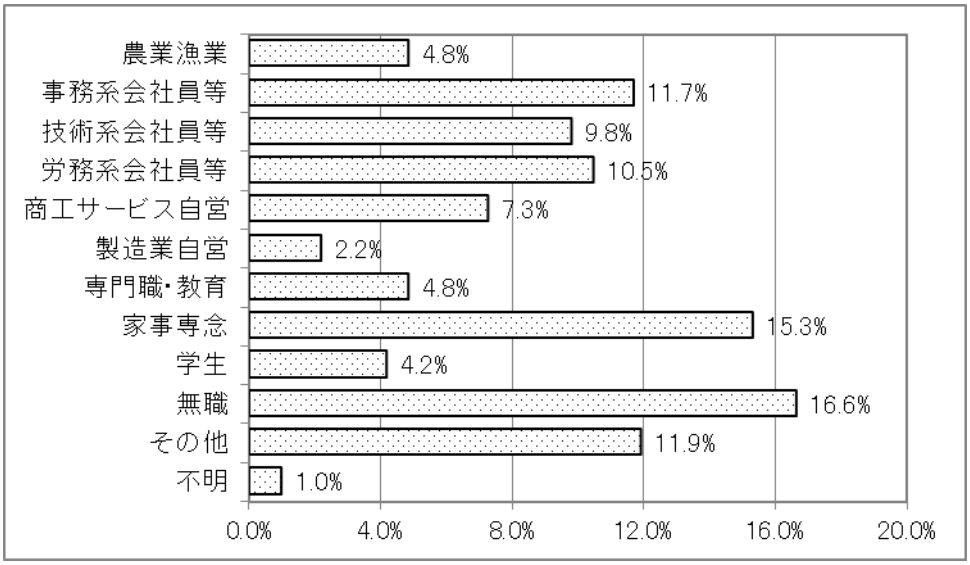


(2)　職業と通勤･通学先

①　職業

「無職」が全体の 16.6%と最も多く、「家事専念」が 15.3%でそれに次いでいる。一方、職業を持っておられる回答者の中では、「事務系会社員」が 11.7%と最も多く、「技術系」「労務系」を含めて、会社員の割合が 3 割を超えている。「農業漁業」の回答は全体の 4.8%に過ぎない。

年齢別に職業をみると、農業漁業の方は 8 割以上が 60 歳代以上であり、20 歳代から 40 歳代は全体の約半数が会社員である。

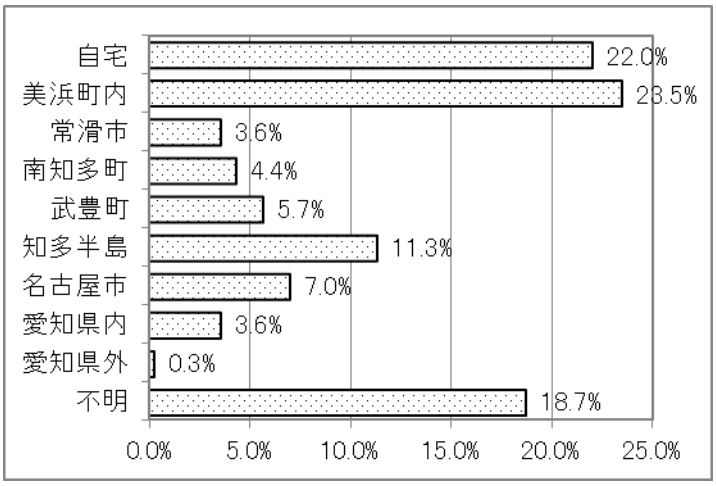


	問4職業												
問2年齢	農業漁業	事務系会社員等	技術系会社員等	労務系会社員等	商工サービス自営	製造業自営	専門職･教育	家事専念	学生	無職	その他	不明	合計
10歳代	0	0	1	0	0	0	0	0	21	0	2	0	24
	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	87.5%	0.0%	8.3%	0.0%	100.0%
20歳代	1	16	12	15	1	1	6	5	17	3	6	1	84
	1.2%	19.0%	14.3%	17.9%	1.2%	1.2%	7.1%	6.0%	20.2%	3.6%	7.1%	1.2%	100.0%
30歳代	1	19	21	20	4	2	9	26	0	6	16	0	124
	0.8%	15.3%	16.9%	16.1%	3.2%	1.6%	7.3%	21.0%	0.0%	4.8%	12.9%	0.0%	100.0%
40歳代	0	32	18	25	16	4	8	24	0	3	25	4	159
	0.0%	20.1%	11.3%	15.7%	10.1%	2.5%	5.0%	15.1%	0.0%	1.9%	15.7%	2.5%	100.0%
50歳代	6	23	28	20	15	2	13	21	0	12	32	2	174
	3.4%	13.2%	16.1%	11.5%	8.6%	1.1%	7.5%	12.1%	0.0%	6.9%	18.4%	1.1%	100.0%
60歳代	21	13	9	13	25	9	7	43	0	72	25	1	238
	8.8%	5.5%	3.8%	5.5%	10.5%	3.8%	2.9%	18.1%	0.0%	30.3%	10.5%	0.4%	100.0%
70歳以上	15	3	0	2	5	2	1	19	0	54	2	0	103
	14.6%	2.9%	0.0%	1.9%	4.9%	1.9%	1.0%	18.4%	0.0%	52.4%	1.9%	0.0%	100.0%
不明	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	44	106	89	95	66	20	44	139	38	151	108	9	909
	4.8%	11.7%	9.8%	10.5%	7.3%	2.2%	4.8%	15.3%	4.2%	16.6%	11.9%	1.0%	100.0%

② 通勤・通学先

通勤・通学先としては、「美浜町内」が全体の 23.5%であり、近隣市町を含む知多半島内は 25.0%である。

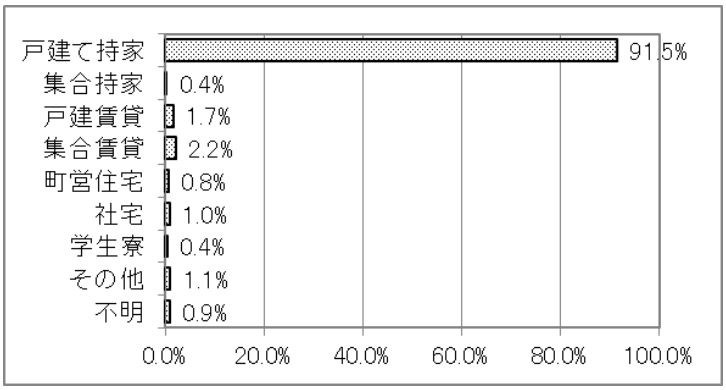
職業別に通勤・通学先を見ると、農業漁業はほとんどが美浜町内であり、会社員では、約 1/4 が美浜町内、約 6 割が知多半島内となっている。学生については、日本福祉大学の学生は約 1/4 に過ぎず、3/4 は町外の大学に通学している学生である。



	問5通勤・通学先										
問4職業	自宅	美浜町内	常滑市	南知多町	武豊町	知多半島	名古屋市	愛知県内	愛知県外	不明	合計
農業漁業	24	8	0	1	1	1	0	0	0	9	44
	54.5%	18.2%	0.0%	2.3%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	20.5%	100.0%
事務系会社員等	3	25	7	6	6	19	16	3	0	21	106
	2.8%	23.6%	6.6%	5.7%	5.7%	17.9%	15.1%	2.8%	0.0%	19.8%	100.0%
技術系会社員等	2	14	8	2	11	15	6	11	1	19	89
	2.2%	15.7%	9.0%	2.2%	12.4%	16.9%	6.7%	12.4%	1.1%	21.3%	100.0%
労務系会社員等	2	24	3	6	11	23	10	3	0	13	95
	2.1%	25.3%	3.2%	6.3%	11.6%	24.2%	10.5%	3.2%	0.0%	13.7%	100.0%
商工サービス自営	22	17	1	0	1	4	4	0	0	17	66
	33.3%	25.8%	1.5%	0.0%	1.5%	6.1%	6.1%	0.0%	0.0%	25.8%	100.0%
製造業自営	13	4	0	1	0	0	0	0	0	2	20
	65.0%	20.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	100.0%
専門職・教育	3	14	2	1	5	9	2	1	0	7	44
	6.8%	31.8%	4.5%	2.3%	11.4%	20.5%	4.5%	2.3%	0.0%	15.9%	100.0%
家事専念	93	3	0	2	0	3	2	0	0	36	139
	66.9%	2.2%	0.0%	1.4%	0.0%	2.2%	1.4%	0.0%	0.0%	25.9%	100.0%
学生	1	8	0	0	0	3	10	7	1	8	38
	2.6%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.9%	26.3%	18.4%	2.6%	21.1%	100.0%
無職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	3	60	5	13	8	8	3	2	0	6	108
	2.8%	55.6%	4.6%	12.0%	7.4%	7.4%	2.8%	1.9%	0.0%	5.6%	100.0%
不明	1	1	1	1	0	1	0	0	0	4	9
	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	100.0%
合計	167	178	27	33	43	86	53	27	2	142	758
	22.0%	23.5%	3.6%	4.4%	5.7%	11.3%	7.0%	3.6%	0.3%	18.7%	100.0%

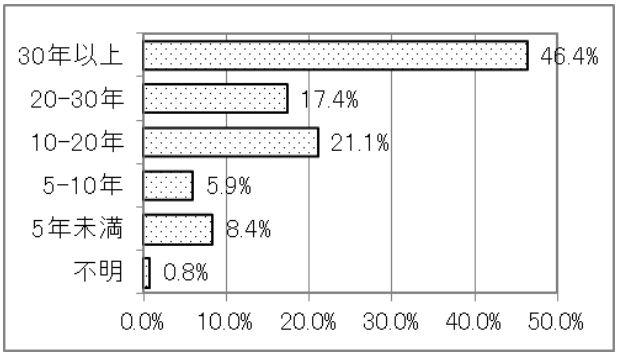
(3) 住宅

全体の9割以上の回答者が「戸建て持ち家」に居住しており、きわめて高い比率となっている。

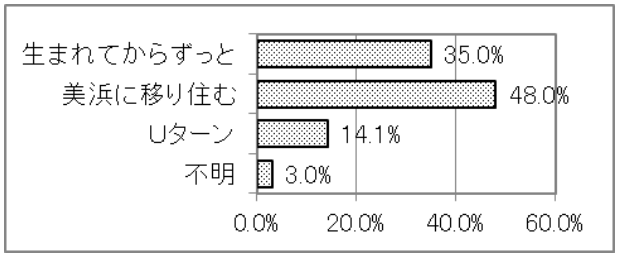


(4)　町内での居住状況

美浜町内での居住年数は、30 年以上の方が、全体の 46.4%と、半数近くに達している。20 年以上の方を合わせると、6 割以上の方が、長く美浜町内に住んでいることがわかる。



一方、美浜町内に住み始めた時期については、「生まれてからずっと」住み続けている方は全体の 35.0%にとどまり、町外から移り住んだ方が 48.0%と半数近くに達していることが特徴である。



性別をみると、男性の 44.9%が生まれてからずっと美浜町内に住んでいるのに対して、女性は結婚などで転入してきた人が半数を超える。

地区別にみると、いずれの地区でも「美浜に移り住んだ」転入者が最も多いが、奥田や布土、野間では「生まれてからずっと」住んでいる人の割合がやや高く、野間や上野間では、「Uターン」が他地区よりも多い。

	問9住み始め				
問1性別	生まれてからずっと	美浜に移り住む	Uターン	不明	合計
男性	186	155	65	8	414
	44.9%	37.4%	15.7%	1.9%	100.0%
女性	131	281	63	17	492
	26.6%	57.1%	12.8%	3.5%	100.0%
不明	1	0	0	2	3
	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%
合計	318	436	128	27	909
	35.0%	48.0%	14.1%	3.0%	100.0%

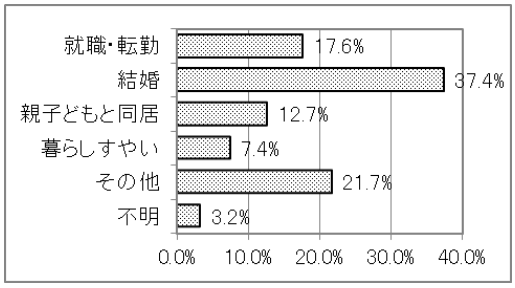
	問9住み始め				
問3居住地区	生まれてからずっと	美浜に移り住む	Uターン	不明	合計
布土	39	49	16	0	104
	37.5%	47.1%	15.4%	0.0%	100.0%
河和	97	145	31	7	280
	34.6%	51.8%	11.1%	2.5%	100.0%
河和南部	23	39	7	6	75
	30.7%	52.0%	9.3%	8.0%	100.0%
野間	62	72	32	2	168
	36.9%	42.9%	19.0%	1.2%	100.0%
奥田	56	65	18	4	143
	39.2%	45.5%	12.6%	2.8%	100.0%
上野間	41	63	24	5	133
	30.8%	47.4%	18.0%	3.8%	100.0%
わからない	0	2	0	0	2
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
不明	0	1	0	3	4
	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	100.0%
合計	318	436	128	27	909
	35.0%	48.0%	14.1%	3.0%	100.0%

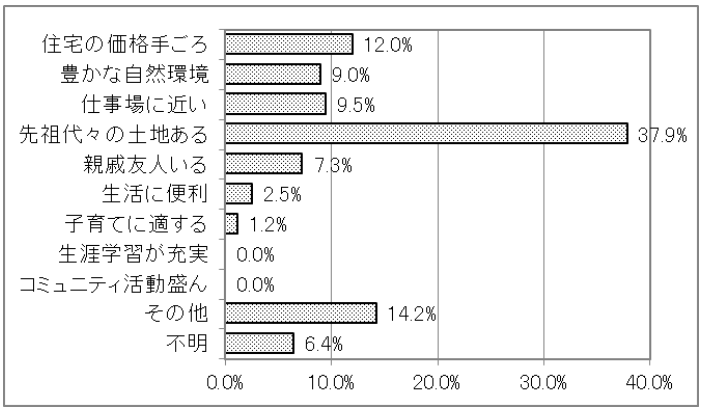
(5)　移住・転入したきっかけと理由

美浜町に転入あるいは移住してきたきっかけとしては、「結婚」が 37.4%と最も多く、「その他」「就職・転勤」がそれに続いている。

理由としては、「先祖代々の土地がある」が 37.9%と全体の約 4 割を占め、次いで、「その他」「住宅価格が手ごろ」が挙げられている。

地区別に、移住・転入てしきた理由をみると、いずれの地区でも、「先祖代々の土地がある」が最も多いが、上野間（美浜緑苑）は、「豊かな自然環境」や「手ごろな住宅価格」を理由に転入してきた人が多いことが特徴である。





	問10-2美浜を選んだ理由											
問3居住地区	住宅の価格手ごろ	豊かな自然環境	仕事場に近い	先祖代々の土地ある	親戚友人いる	生活に便利	子育てに適する	生涯学習が充実	コミュニティ活動盛ん	その他	不明	合計
布土	2	5	7	36	3	0	0	0	0	8	4	65
	3.1%	7.7%	10.8%	55.4%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.3%	6.2%	100.0%
河和	22	15	20	49	17	10	4	0	0	35	11	183
	12.0%	8.2%	10.9%	26.8%	9.3%	5.5%	2.2%	0.0%	0.0%	19.1%	6.0%	100.0%
河和南部	7	2	1	23	3	1	0	0	0	8	7	52
	13.5%	3.8%	1.9%	44.2%	5.8%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	13.5%	100.0%
野間	12	4	11	51	6	0	1	0	0	13	8	106
	11.3%	3.8%	10.4%	48.1%	5.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	12.3%	7.5%	100.0%
奥田	10	4	8	42	7	2	1	0	0	11	2	87
	11.5%	4.6%	9.2%	48.3%	8.0%	2.3%	1.1%	0.0%	0.0%	12.6%	2.3%	100.0%
上野間	16	22	8	23	7	2	1	0	0	9	4	92
	17.4%	23.9%	8.7%	25.0%	7.6%	2.2%	1.1%	0.0%	0.0%	9.8%	4.3%	100.0%
わからない	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
不明	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	71	53	56	224	43	15	7	0	0	84	38	591
	12.0%	9.0%	9.5%	37.9%	7.3%	2.5%	1.2%	0.0%	0.0%	14.2%	6.4%	100.0%

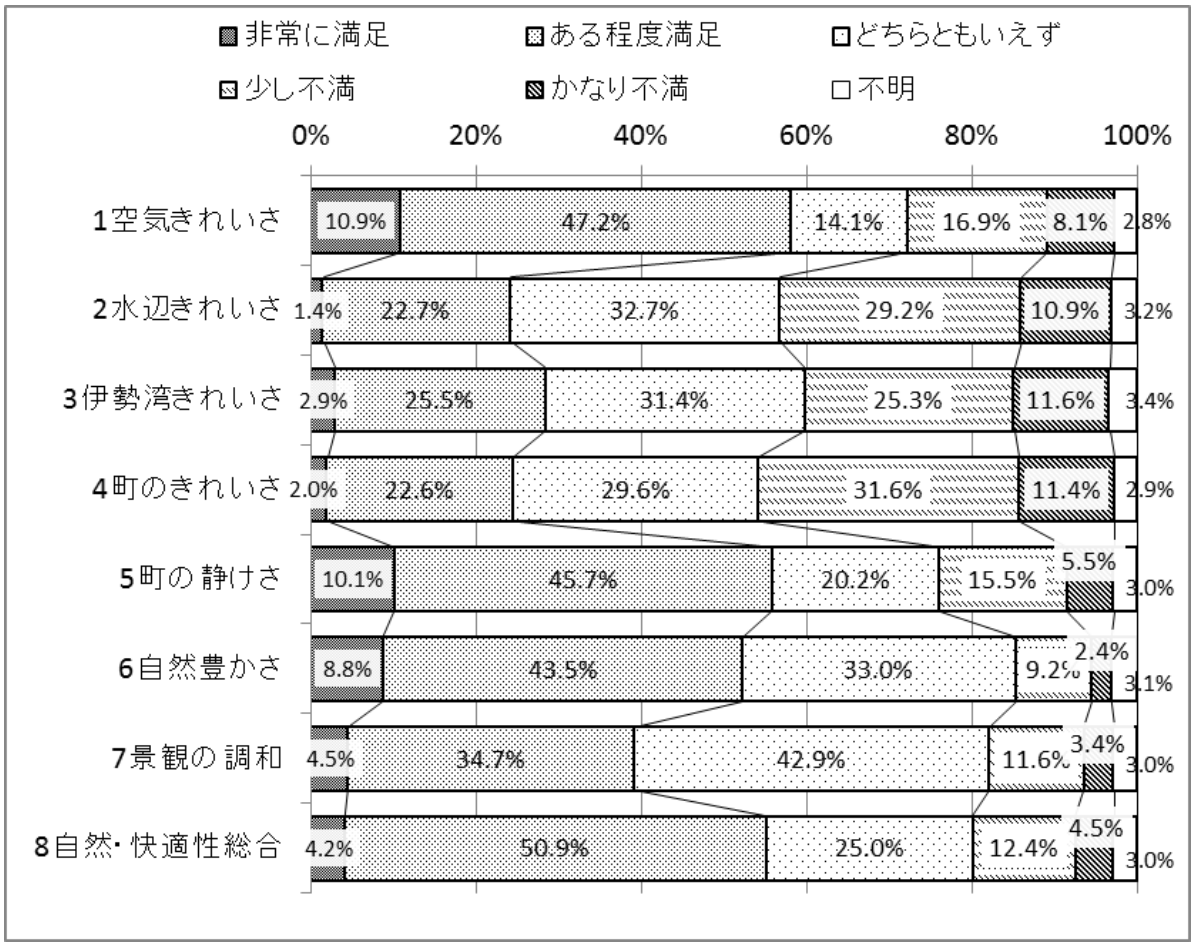
２．生活環境評価

問11　あなたは美浜町の生活環境に対してどのような印象をお持ちですか？　各項目について、**現状の満足度**について、それぞれ５段階評価でお答えください。

【自然・快適性－満足度】

満足度が高い項目としては、「1 空気のきれいさ」「5 町の静けさ」「6 自然の豊かさ」などがあげられ、「8 自然・快適性の総合評価」は比較的高くなっている。

一方、「2 水辺のきれいさ」「3 伊勢湾のきれいさ」「4 町のきれいさ」などのきれいさに関わる項目は、「非常に満足」および「ある程度満足」を加えても、3 割に満たず、逆に、不満に感じている方が 4 割前後に達している。

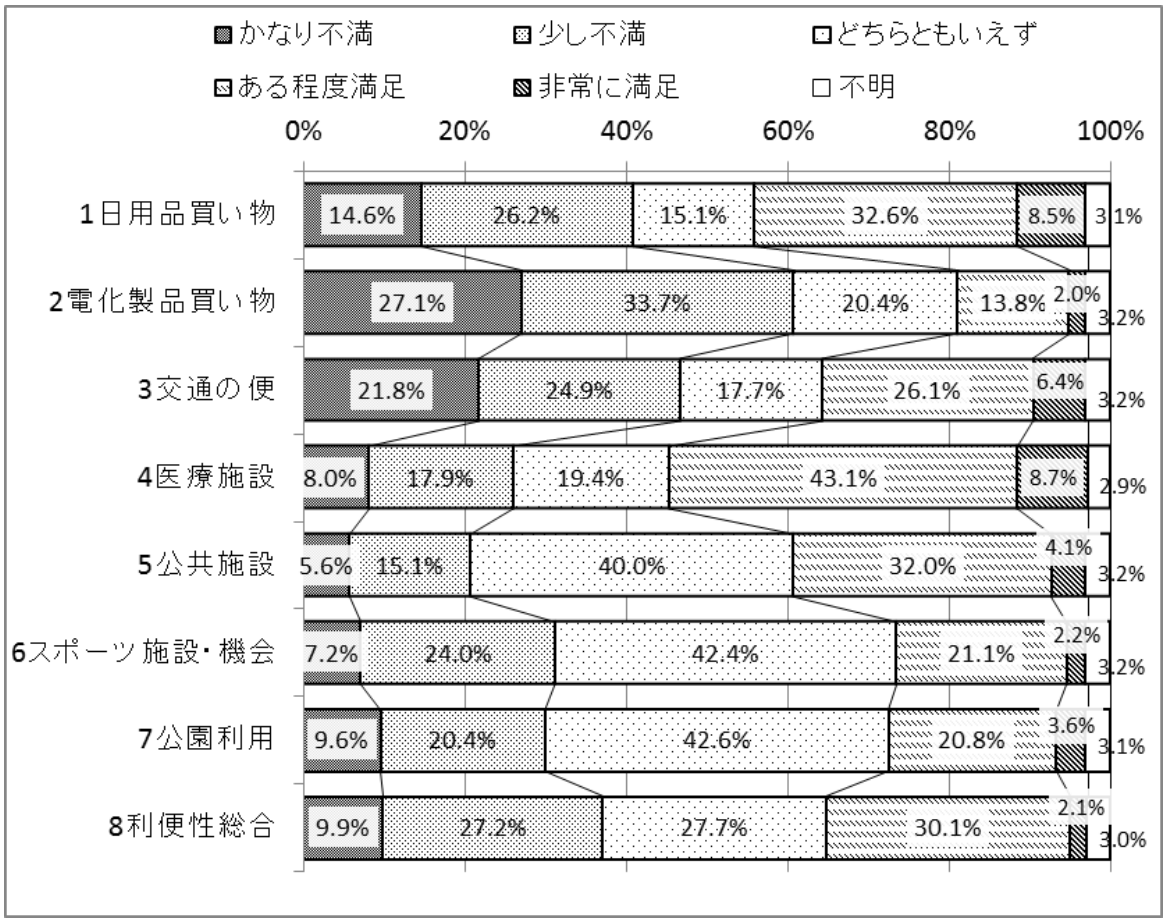


【利便性－満足度】

利便性に関わる項目の中で、「4 医療施設」に対する評価が最も高く、約半数の方が「非常に満足」あるいは「ある程度満足」と回答している。また、「1 日曜品の買い物」についても比較的高い満足度である。

一方、「2 電化製品などの買い物」について満足している方は全体の 2 割に満たず、約 6 割の方が不満と評価している。

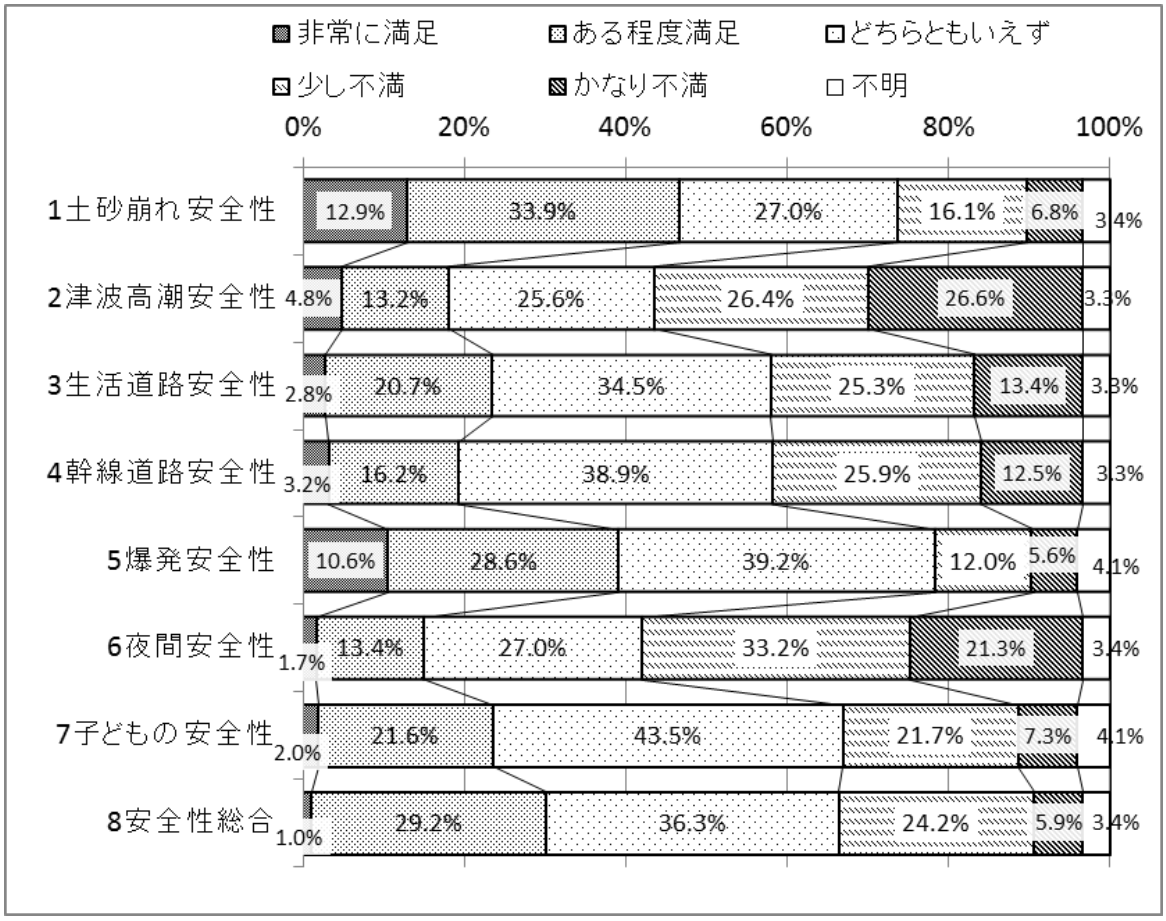
「6 スポーツ施設の利用機会」や「7 公園の利用」に関しては、「どちらともいえない」という中庸的な回答が多い。



【安全性－満足度】

安全性に関わる項目のうち、満足度が高い項目は「1 土砂崩れに対する安全性」であり、半数近い方が満足している。また、「5 爆発に対する安全性」も 4 割近い方が満足している。

一方、他の項目はいずれも満足度が低く、特に、「6 夜間の安全性」「2 津波に対する安全性」「3 生活道路の安全性」「4 幹線道路の安全性」に対する満足度はかなり低くなっている。特に、「6 夜間の安全性」および「2 津波に対する安全性」に対しては、「かなり不満」が 2 割を超えるなど、厳しい評価結果となっている。「安全性に関する総合評価」も、3 割近い方が不満と評価している。

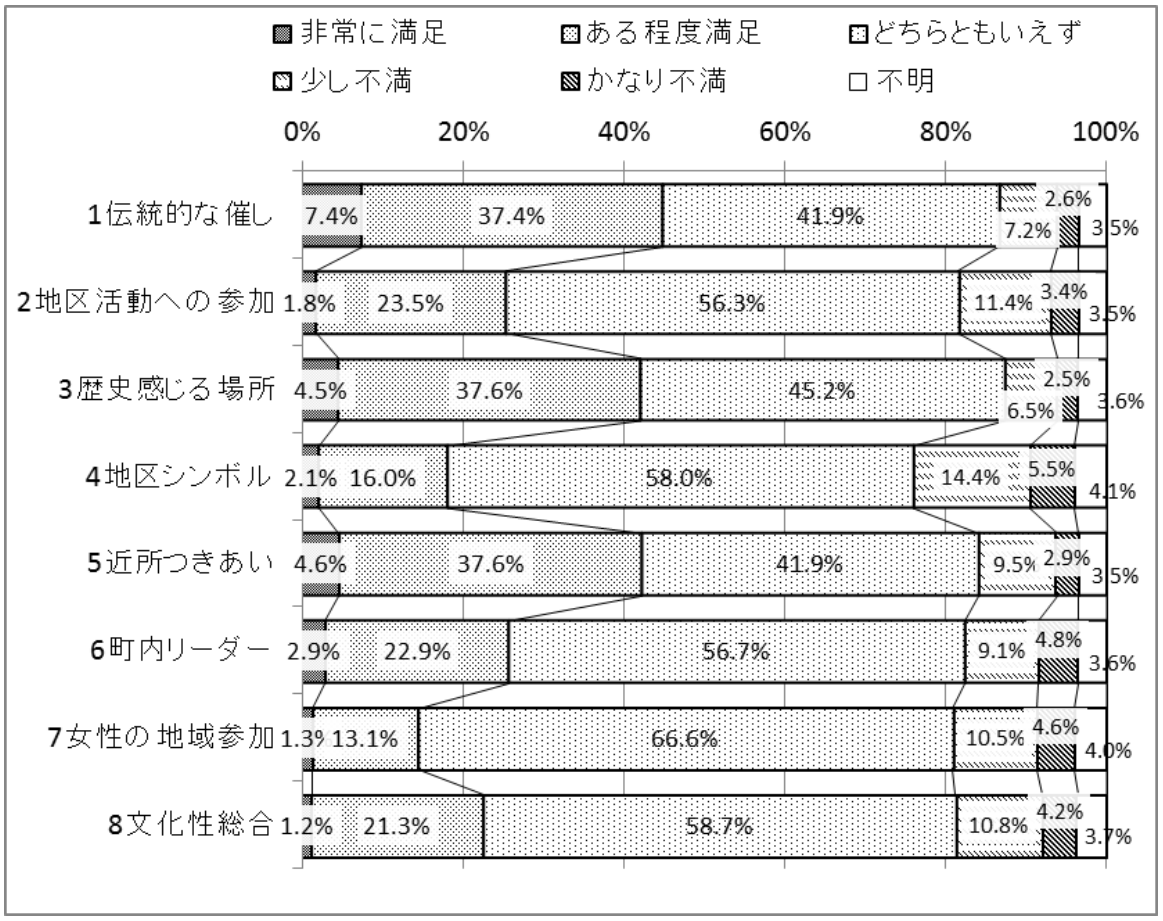


【文化性－満足度】

文化性に関わる項目については、「非常に満足」している割合はいずれも 1 割に満たないが、「ある程度満足」を加えると、「1 伝統的な催し」「3 歴史を感じる場所」「5 近所つきあい」では、4 割を超える方が満足している。

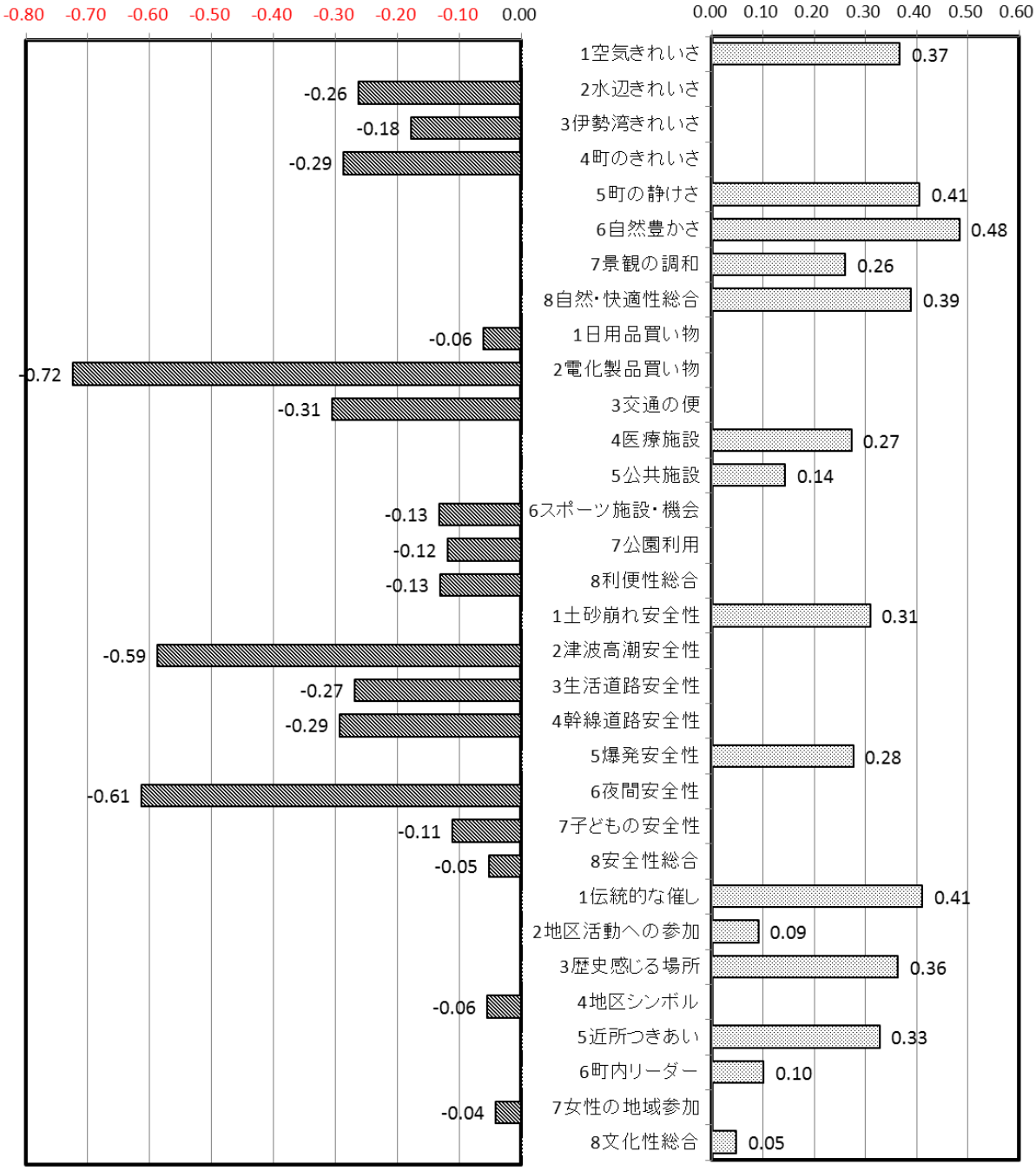
一方、「7 女性の地域参加」や「4 地区のシンボル」については、満足度がかなり低くなっている。

「8 文化性に関する総合評価」は、「どちらともいえない」という中庸的な回答が全体の 6 割近くあった。



【生活環境に対する満足度（得点化）】

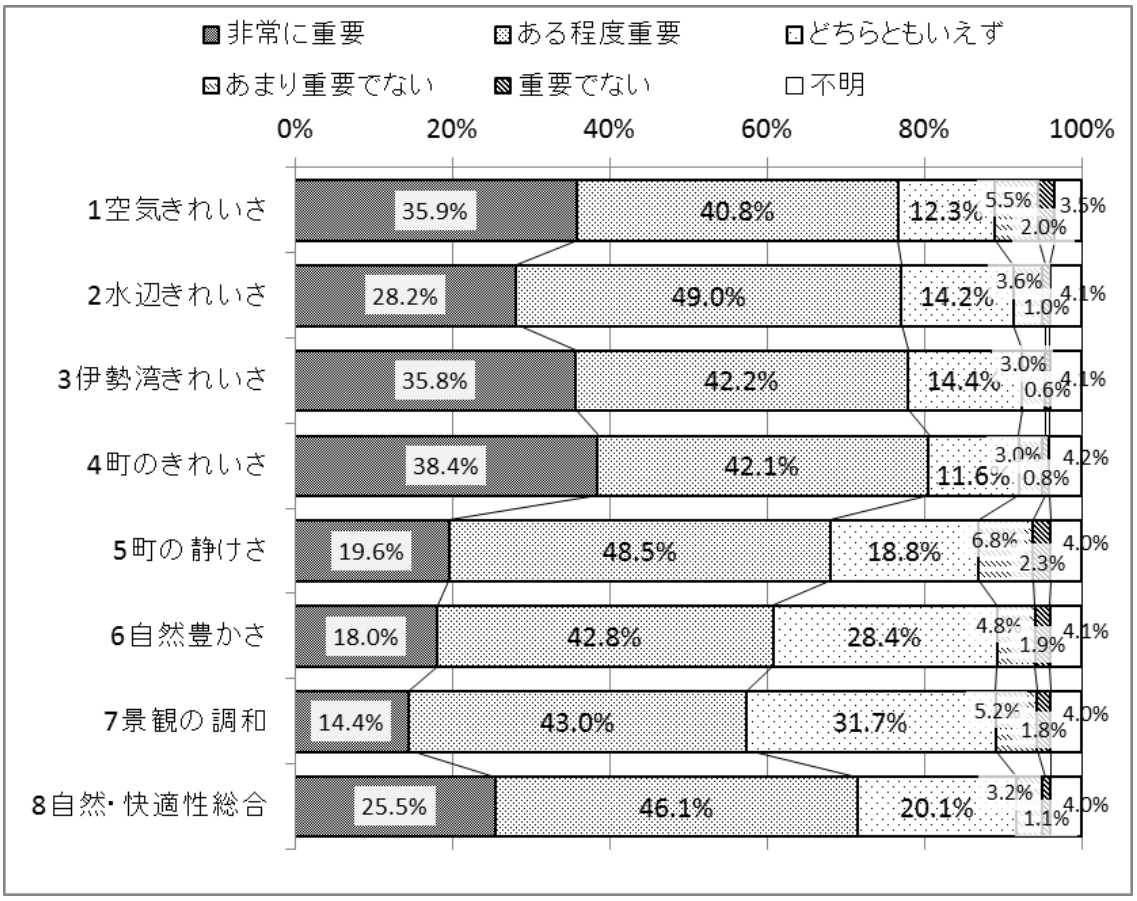
「非常に満足」を２点、「ある程度満足」を１点、「少し不満」をマイナス１点、「かなり不満」をマイナス２点として、各項目に対する評価結果を得点化し以下に示す。評価得点が高い項目は、「自然の豊かさ」「町の静けさ」「伝統的な催し」などであり、逆に評価得点が低い項目は、「電化製品などの買い物」「夜間の安全性」「津波に対する安全性」などが挙げられる。



問11　あなたは美浜町の生活環境に対してどのような印象をお持ちですか？　各項目について、これからの**施策の重要度**について、それぞれ５段階評価でお答えください。

【自然・快適性－重要度】

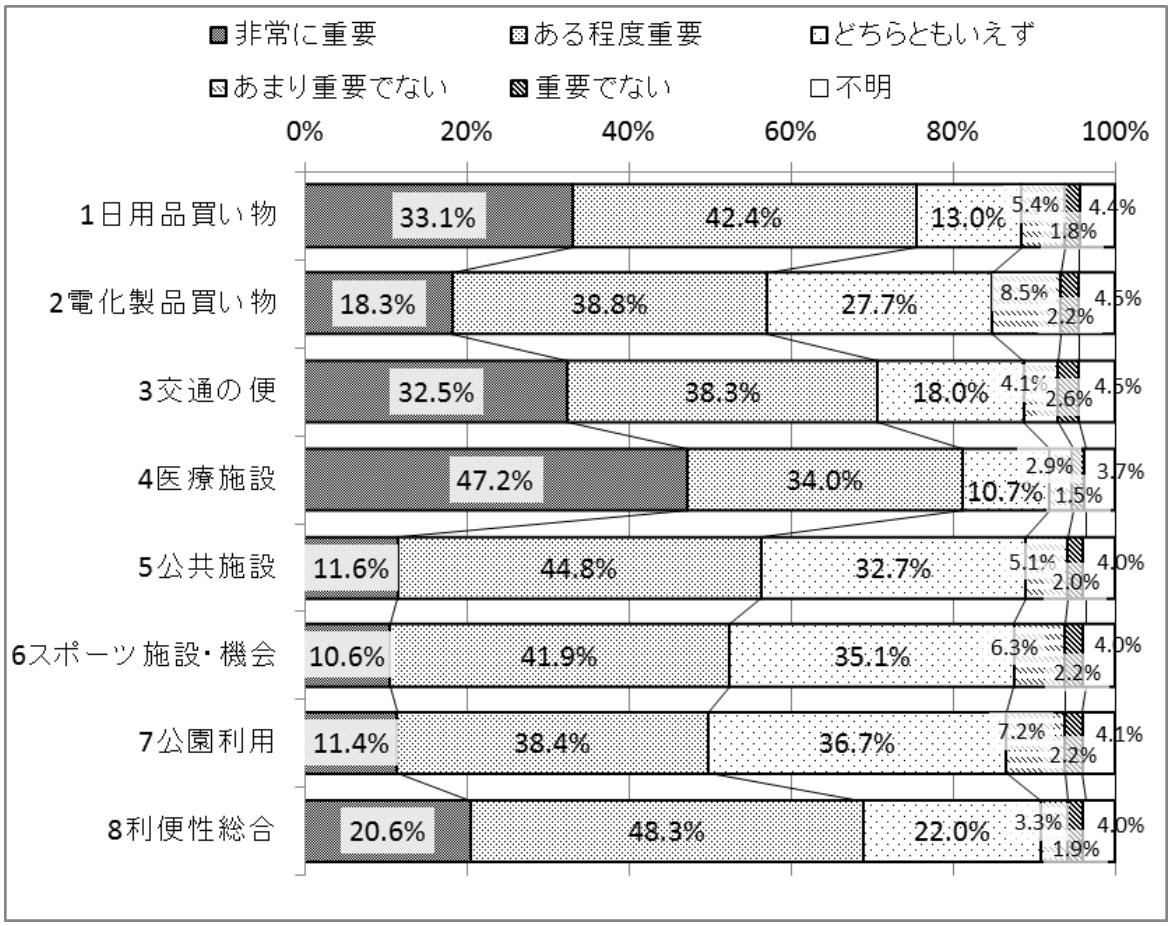
自然性、快適性に関わる評価項目のうち、「1 空気のきれいさ」「2 水辺のきれいさ」「3 伊勢湾のきれいさ」「4 町のきれいさ」というきれいさに関わる項目はいずれも、「非常に重要」と考えている方がおよそ 3 割を超え、「ある程度重要」を含めると、8 割前後の方が重要だと認識している。「6 自然の豊かさ」「7 景観との調和」は、他の項目と比較すればやや重要度が低く評価されているが、「ある程度重要」を含めると 6 割の方が重要性を認識している。



【利便性－重要度】

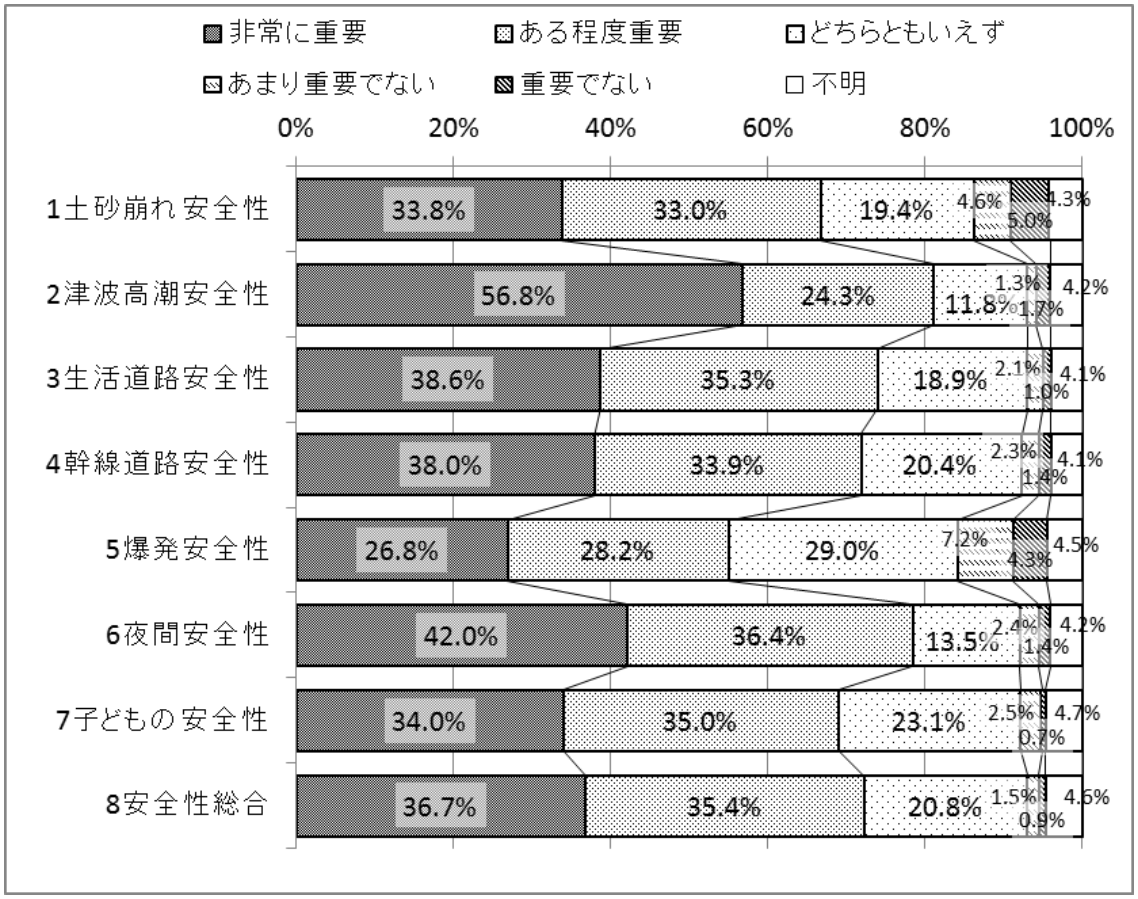
利便性に関わる評価項目のうち、「4 医療施設」「1 日用品の買い物」「3 交通の便」といった、日常の生活に密着した項目はいずれも重要と考えている方が 7 割以上に達し、その重要性が強く認識されている。

一方、「5 公共施設の利用」「6 スポーツの機会や施設利用」「7 公園の利用」については、「非常に重要」と考えている方は 1 割程度にとどまり、「重要でない」「あまり重要でない」との回答が 1 割弱程度みられる。



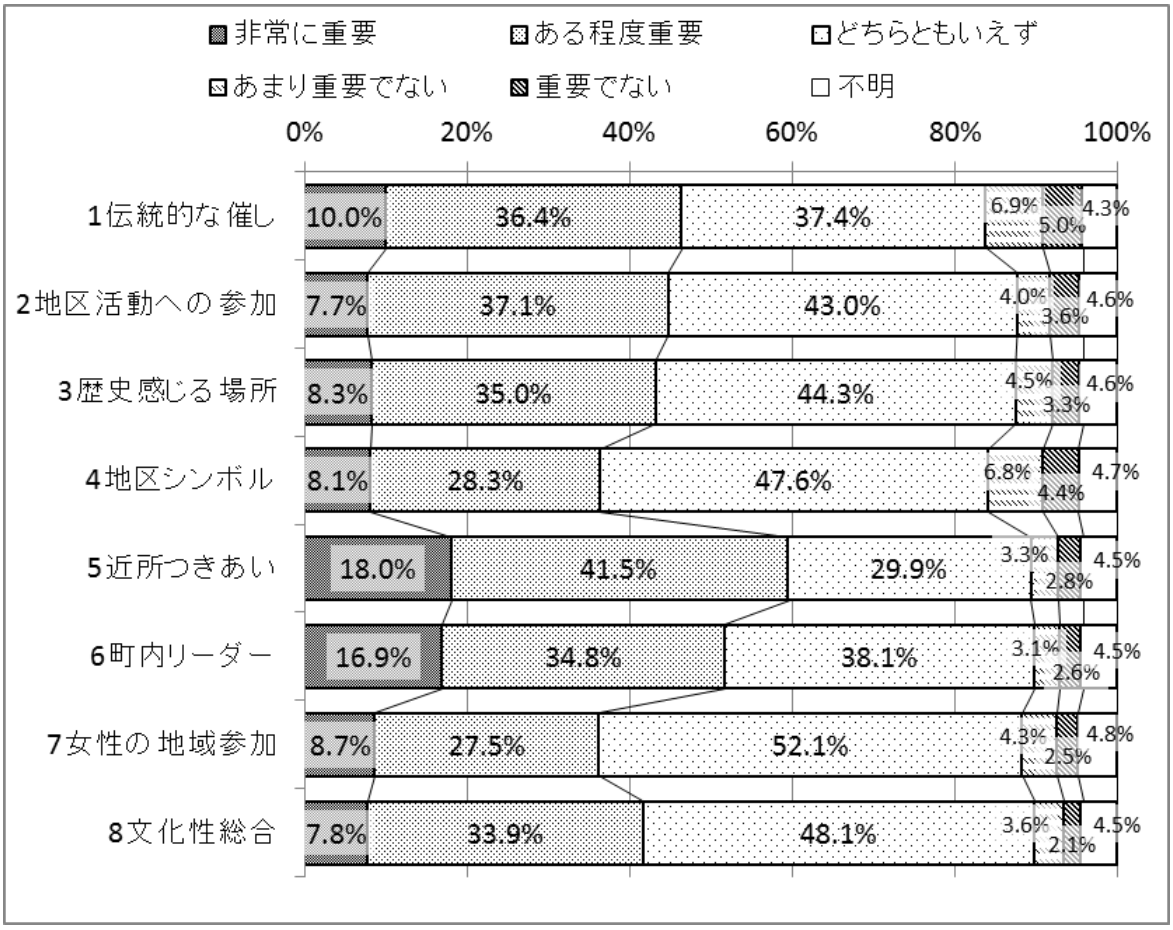
【安全性－重要度】

安全性に関わる評価項目に関しては、ほとんどの項目に対して「非常に重要」との回答が 3～4 割前後に達している。特に、「2 津波・高潮に対する安全性」や「6 夜間の安全性」といった治安に関わる項目は、「非常に重要」の回答が、4 割、5 割を超えており、地域の方々にとって特に重要性が意識されている項目といえる。



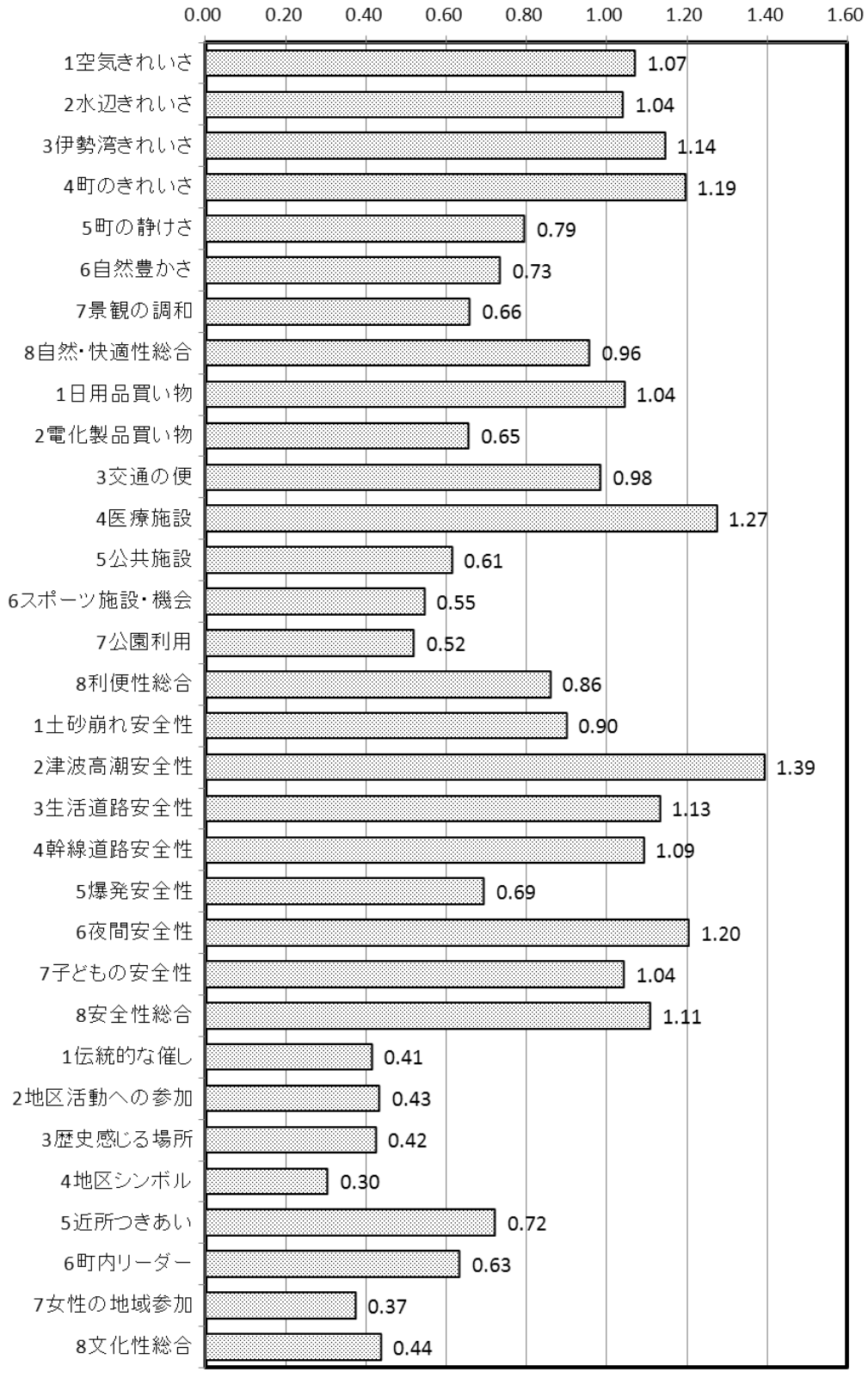
【文化性－重要度】

文化性に関わる項目に関しては、いずれの項目も「非常に重要」との回答は 1 割前後にとどまっているが、「ある程度重要」を含めると、「5 近所つきあい」「6 町内リーダーの存在」では 5 割以上の方が重要だと認識している。一方、「4 地区のシンボルの存在」「7 女性の地域参加」は、「どちらともいえず」との回答が半数近くを占めており、重要性に対する認識はやや弱い項目である。



【生活環境に対する重要度（得点化）】

「非常に重要」を２点、「ある程度重要」を１点、「あまり重要でない」をマイナス１点、「重要でない」をマイナス２点として、各項目に対する評価結果を得点化し以下に示す。いずれの項目もプラス得点となっているが、評価得点が高い（重要度を強く認識している）項目は、「津波高潮に対する安全性」「医療施設」「夜間の安全性」などである。

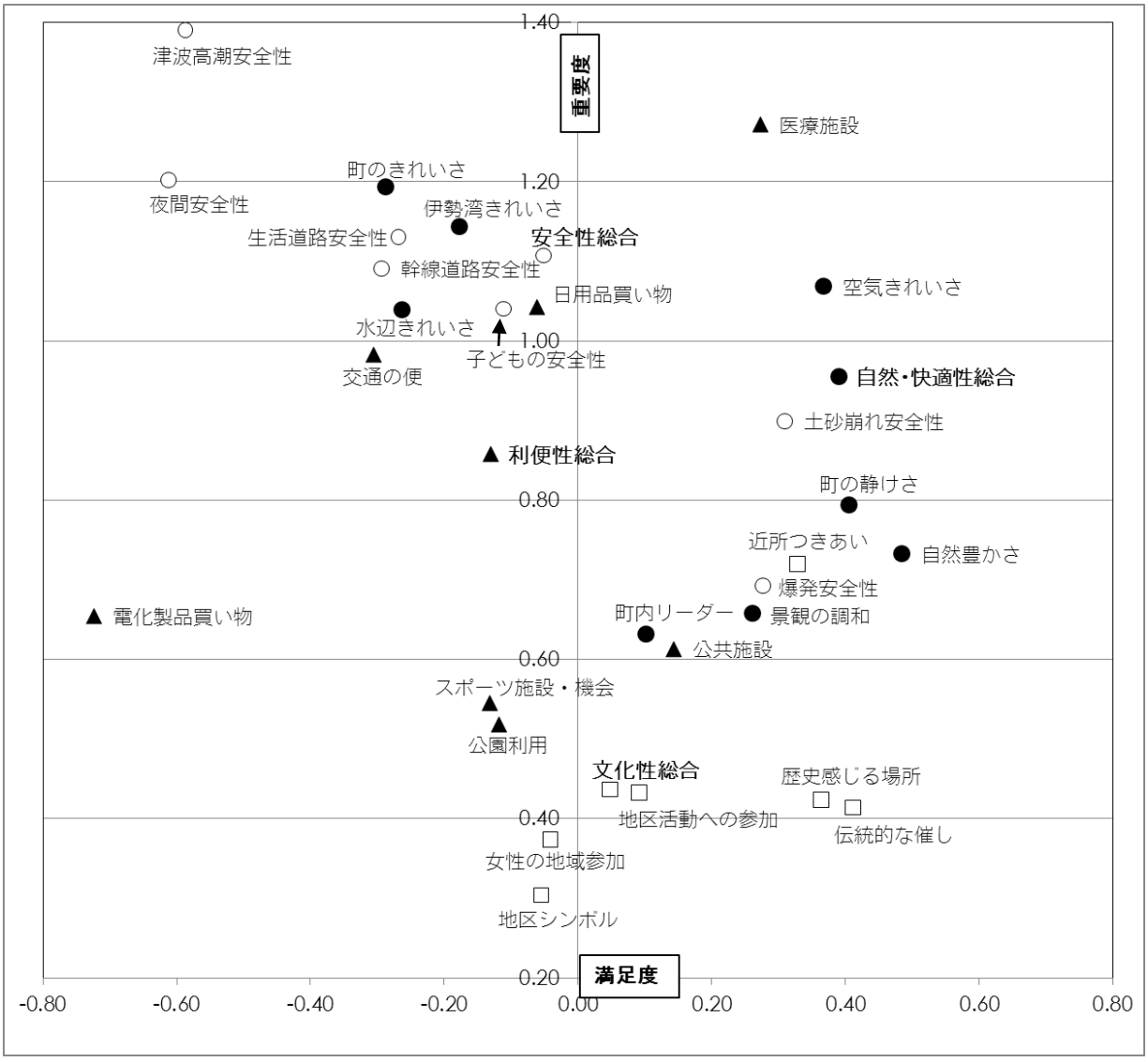


【生活環境に対する満足度と重要度の相関（得点化）】

前述の満足度と重要度の得点を散布図として表記したものが下図である。左上に位置する項目は、満足度が低い一方で、重要度が高いと評価されていることを示し、今後の取り組みが特に重要と考えられる項目である。ここに位置する項目としては、「津波高潮に対する安全性」「夜間の安全性」「町のきれいさ」などがあげられる。

右上に位置する項目は、現状の満足度が高いことに加えて、今後の重要度も高く、現状を維持することが強く期待されている項目である。「医療施設」や「空気のきれいさ」があげられる。

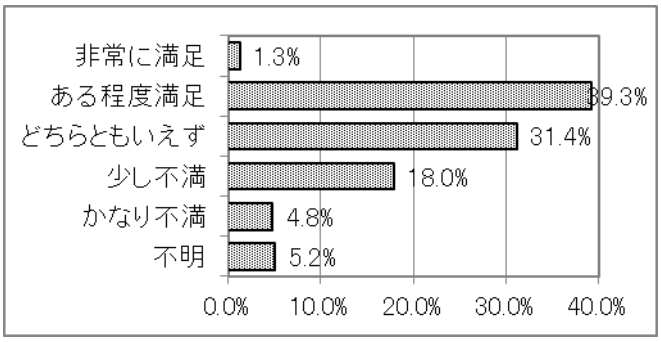
一方、右下に位置する項目は、現状の満足度が高いものの、今後の重要度は比較的低いことになる。「歴史を感じられる場所の存在」「伝統的な催しの存在」など文化性に関わる項目が多くあげられる。重要度が低い項目の中には、現状を維持すればよいという意味で重要度は低くなっている項目も含まれると推測できる。



E　自然環境・快適性・利便性・安全性・文化性を総合して、お住まいの地区の生活環境への満足度

自然環境・快適性・利便性・安全性・文化性の 4 つの視点を総合した、生活環境全体に対する評価結果をみると、「ある程度満足」との回答が約 4 割あり、比較的満足度が高い結果となっている。

性別をみると、男性の方が「ある程度満足」と回答した比率が女性よりやや高いが、顕著な差は認められない。住み始めの時期とクロス集計させると、「生まれてからずっと」住んでいる方は、「ある程度満足」の比率が 44.0%であり、「美浜町に移り住んだ」や「Uターン」と比較して評価がやや高い。



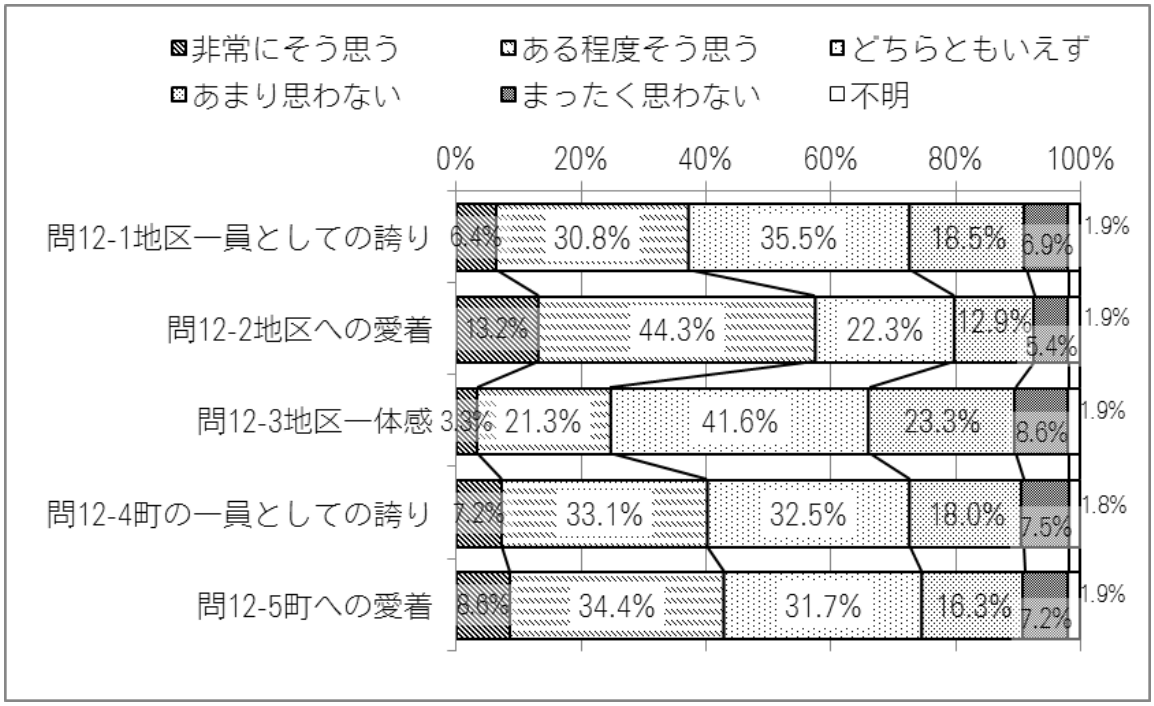
	生活環境総合-満足度						
問1性別	非常に満足	ある程度満足	どちらともいえず	少し不満	かなり不満	不明	合計
男性	5	170	136	67	19	17	414
	1.2%	41.1%	32.9%	16.2%	4.6%	4.1%	100.0%
女性	7	186	149	96	25	29	492
	1.4%	37.8%	30.3%	19.5%	5.1%	5.9%	100.0%
不明	0	1	0	1	0	1	3
	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	12	357	285	164	44	47	909
	1.3%	39.3%	31.4%	18.0%	4.8%	5.2%	100.0%

	生活環境総合-満足度						
問9住み始め	非常に満足	ある程度満足	どちらともいえず	少し不満	かなり不満	不明	合計
生まれてからずっと	3	140	97	59	10	9	318
	0.9%	44.0%	30.5%	18.6%	3.1%	2.8%	100.0%
美浜に移り住む	8	165	136	75	25	27	436
	1.8%	37.8%	31.2%	17.2%	5.7%	6.2%	100.0%
Uターン	1	46	43	26	8	4	128
	0.8%	35.9%	33.6%	20.3%	6.3%	3.1%	100.0%
不明	0	6	9	4	1	7	27
	0.0%	22.2%	33.3%	14.8%	3.7%	25.9%	100.0%
合計	12	357	285	164	44	47	909
	1.3%	39.3%	31.4%	18.0%	4.8%	5.2%	100.0%

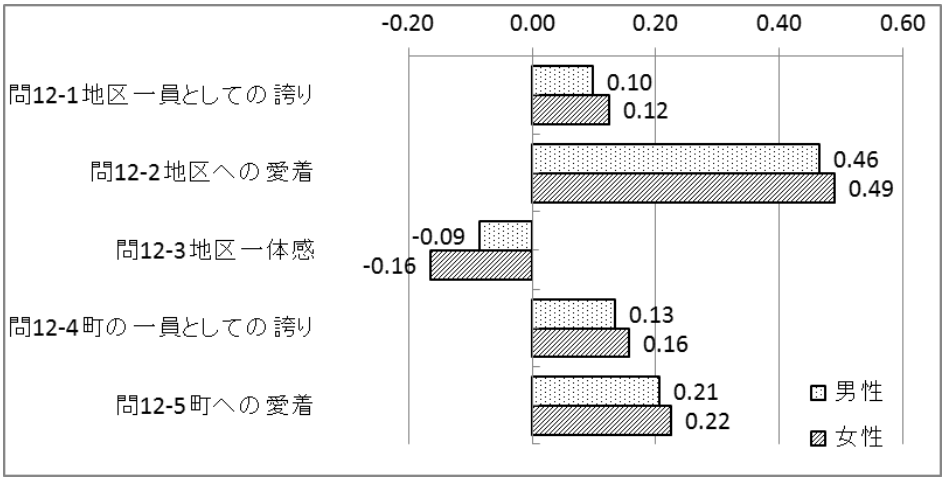
３．まちへの愛着

問12　お住まいの地区や美浜町への愛着についてどうお感じですか？

お住まいの地区や美浜町全体に対する愛着度を５つの観点から聞いた設問である。「地区への愛着」については、半数を超える方が「そう思う」と回答しているが、「地区としての一体感」に対しては、否定的な意見が多いことが特徴的である。

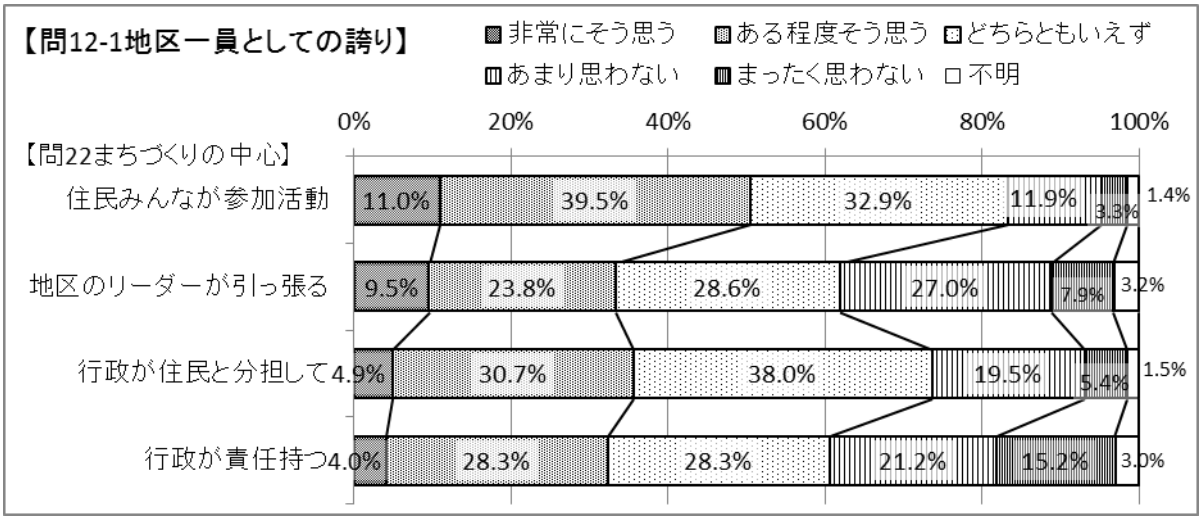


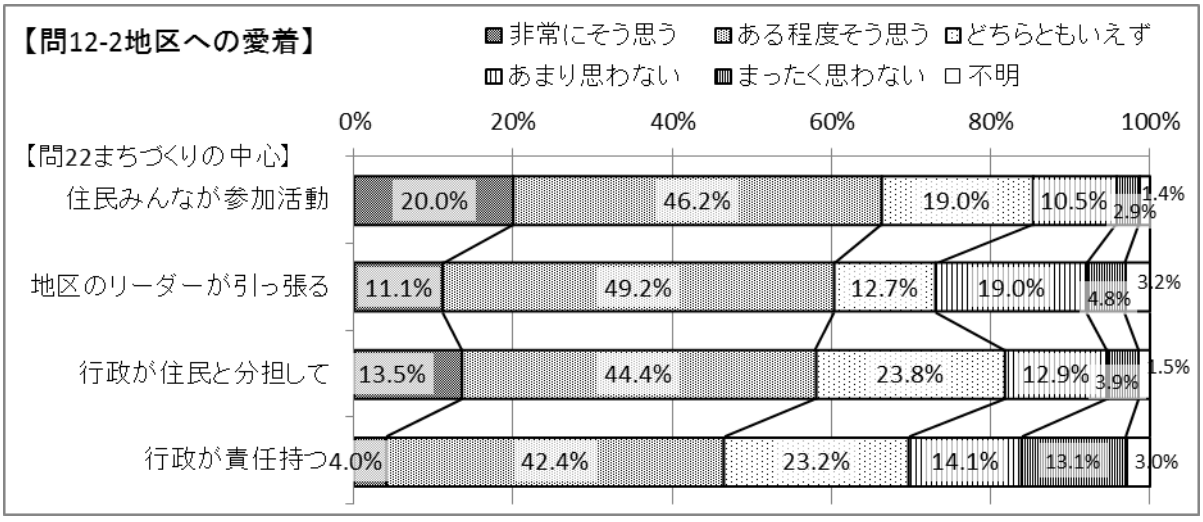
各項目について、「そう思う」を2点、「ある程度そう思う」を1点、「あまり思わない」をマイナス1点、「思わない」をマイナス2点として、各項目に対する評価結果を得点化したうえで、性別に比較した結果を以下に示す。「地区の一体感」を除き、いずれの項目についても、男性よりも女性の方がやや愛着度が強い結果となっている。

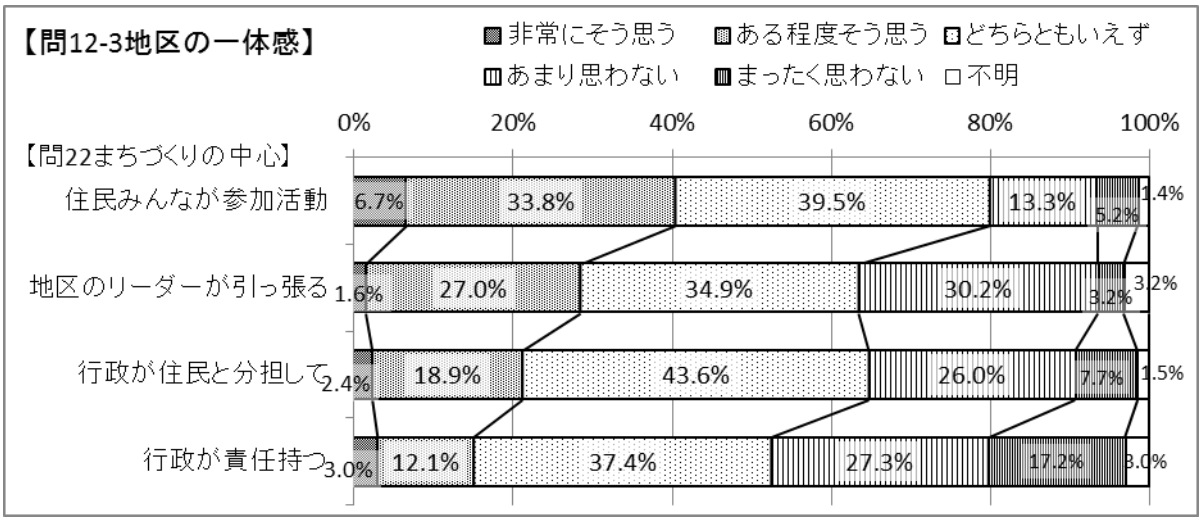


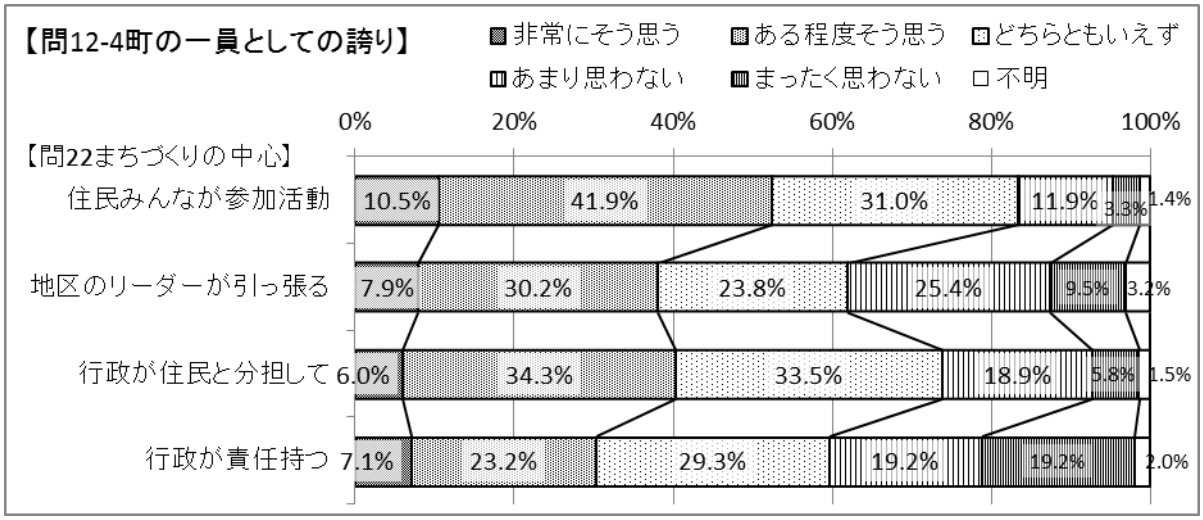
後述する問22では、「これからのまちづくりは、誰が中心となって担っていくべきとお考えですか？」について、「住民みんなの参加」から、「行政の責任」まで、住民と行政との役割分担を4段階に分けて質問している。この設問に対する回答結果と、問12の愛着度への回答結果をクロス集計させたものが次の図である。「1 地区の一員としての誇り」「2 地区への愛着」「3 地区の一体感」については、問22でまちづくりは、「住民みんなが参加活動」と回答された方は、愛着度が高く、逆にまちづくりは「行政が責任持つ」と回答された方は相対的にみて愛着度が低い結果となった。つまり、まちづくりは住民主体で担う意識が強い方ほど、地区への愛着度が強いことになる。

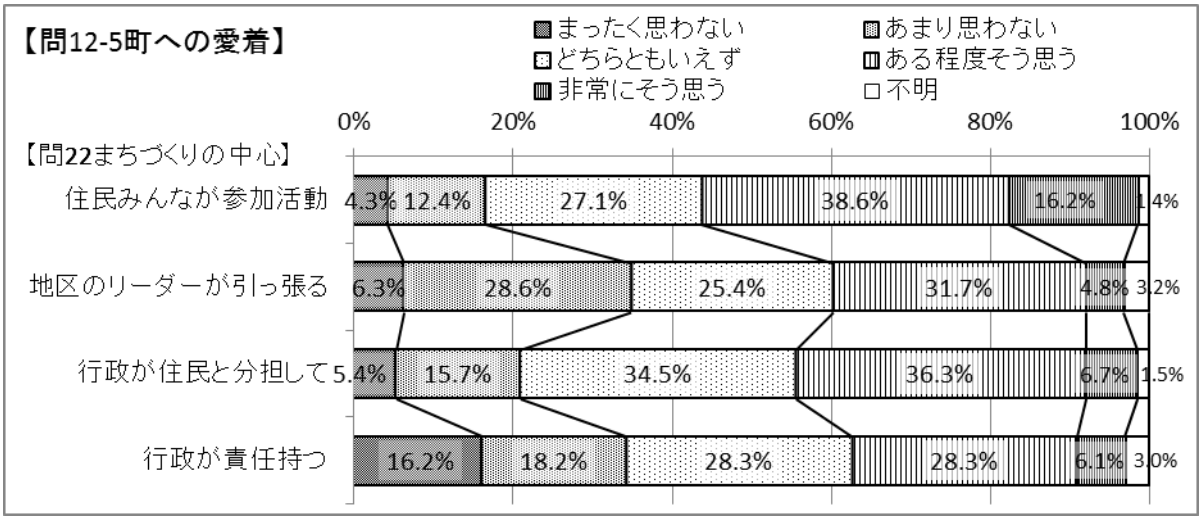
一方、「5 町への愛着」については、まちづくりには「行政が責任を持つ」と考える方が、強い愛着を感じている結果となっている。






【問12-3地区の一体感】
非常にそう思う
ある程度そう思う
どちらともいえず
あまり思わない
まったく思わない
不明
0%
20%
40%
60%
80%
100%
【問22まちづくりの中心】
住民みんなが参加活動
6.7%
33.8%
39.5%
13.3%
5.2%
1.4%
地区のリーダーが引っ張る
1.6%
27.0%
34.9%
30.2%
3.2%
3.2%
行政が住民と分担して
2.4%
18.9%
43.6%
26.0%
7.7%
1.5%
行政が責任持つ
3.0%
12.1%
37.4%
27.3%
17.2%
3.0%

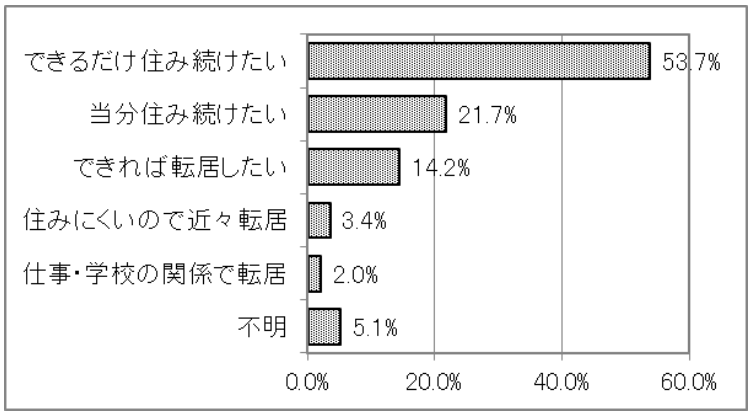

【問12-4町の一員としての誇り】
非常にそう思う
ある程度そう思う
どちらともいえず
あまり思わない
まったく思わない
不明
0%
20%
40%
60%
80%
100%
【問22まちづくりの中心】
住民みんなが参加活動
10.5%
41.9%
31.0%
11.9%
3.3%
1.4%
地区のリーダーが引っ張る
7.9%
30.2%
23.8%
25.4%
9.5%
3.2%
行政が住民と分担して
6.0%
34.3%
33.5%
18.9%
5.8%
1.5%
行政が責任持つ
7.1%
23.2%
29.3%
19.2%
19.2%
2.0%


【問12-5町への愛着】
まったく思わない
あまり思わない
どちらともいえず
ある程度そう思う
非常にそう思う
不明
0%
20%
40%
60%
80%
100%
【問22まちづくりの中心】
住民みんなが参加活動
4.3%
12.4%
27.1%
38.6%
16.2%
1.4%
地区のリーダーが引っ張る
6.3%
28.6%
25.4%
31.7%
4.8%
3.2%
行政が住民と分担して
5.4%
15.7%
34.5%
36.3%
6.7%
1.5%
行政が責任持つ
16.2%
18.2%
28.3%
28.3%
6.1%
3.0%

問 13　あなたは、これからも美浜町に住み続けたいと思いますか？

「できるだけ住み続けたい」が全体の 53.7%と過半数を超え、「当分住み続けたい」の 21.7%を合わせると、約 75%の方が定住意欲を持っていることがわかる。「できれば転居したい」という回答は全体の 14.2%に過ぎない。

問 22（まちづくりの担い手）とクロス集計させると、まちづくりは「行政が責任を持つ」べきだと考えている方は、「できれば転居したい」との回答が他の考え方よりもかなり多くなっている。

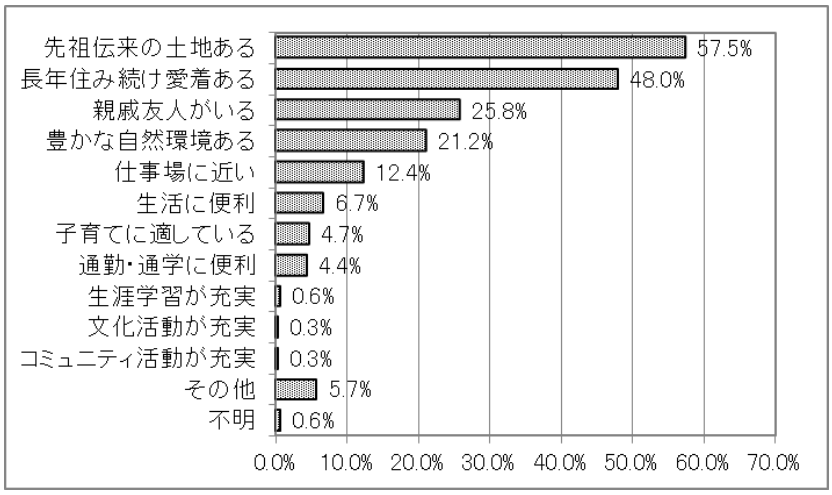


	問13住み続けたいか						
問1性別	できるだけ住み続けたい	当分住み続けたい	できれば転居したい	住みにくいので近々転居	仕事･学校の関係で転居	不明	合計
男性	231	84	53	16	10	20	414
	55.8%	20.3%	12.8%	3.9%	2.4%	4.8%	100.0%
女性	256	113	75	15	8	25	492
	52.0%	23.0%	15.2%	3.0%	1.6%	5.1%	100.0%
不明	1	0	1	0	0	1	3
	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	488	197	129	31	18	46	909
	53.7%	21.7%	14.2%	3.4%	2.0%	5.1%	100.0%

	問13住み続けたいか						
問22まちづくり担い手	できるだけ住み続けたい	当分住み続けたい	できれば転居したい	住みにくいので近々転居	仕事･学校の関係で転居	不明	合計
住民みんなが参加活動	124	40	23	5	8	10	210
	59.0%	19.0%	11.0%	2.4%	3.8%	4.8%	100.0%
地区のリーダーが引っ張る	27	20	8	3	1	4	63
	42.9%	31.7%	12.7%	4.8%	1.6%	6.3%	100.0%
行政が住民と分担して	258	108	62	16	4	18	466
	55.4%	23.2%	13.3%	3.4%	0.9%	3.9%	100.0%
行政が責任持つ	44	12	25	5	5	8	99
	44.4%	12.1%	25.3%	5.1%	5.1%	8.1%	100.0%
よくわからない	29	15	11	2	0	5	62
	46.8%	24.2%	17.7%	3.2%	0.0%	8.1%	100.0%
その他	3	1	0	0	0	0	4
	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
不明	3	1	0	0	0	1	5
	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%
合計	488	197	129	31	18	46	909
	53.7%	21.7%	14.2%	3.4%	2.0%	5.1%	100.0%

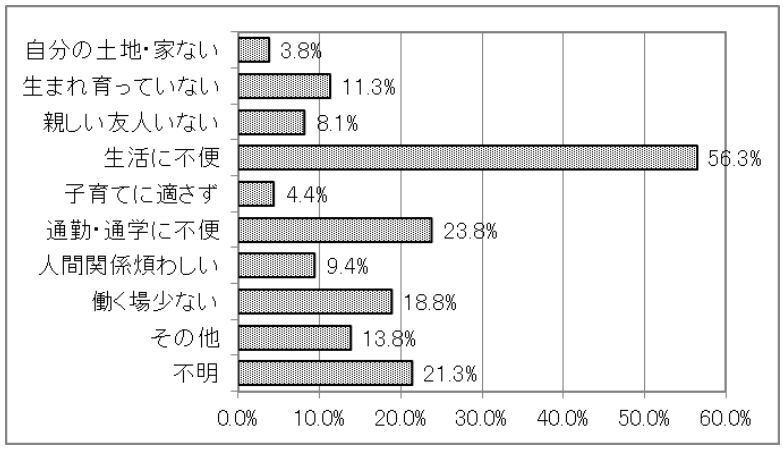
▼　住み続けたい理由（複数回答可）

住み続けたい理由としては、「先祖伝来の土地がある」が 57.5%と過半数を占め、「長年住み続けて愛着がある」も 48.0%と高い割合となっている。



▼　転居したい理由（複数回答可）

逆に、転居したい理由としては、「生活に不便」が 56.3%と半数を超えてもっとも多い。「通勤・通学に不便」の 23.8%も含め、生活の利便性に対する不満が、転居希望へとつながっていることがわかる。

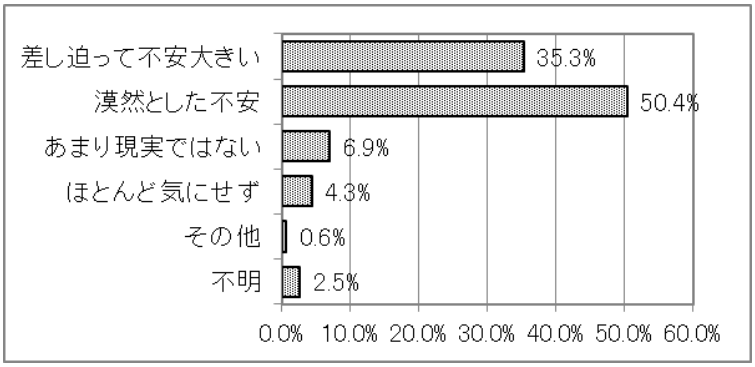


年齢別にみると、30 歳代以下の若年層では、「働く場所が少ない」「生活に不便」といった理由が多いのに対して、60 歳代以上の高齢層では、「親しい友人がいない」「人間関係が煩わしい」といった要因がやや高い割合を占めるようになる。

	問15転居したい理由										
問2年齢	自分の土地･家ない	生まれ育っていない	親しい友人いない	生活に不便	子育てに適さず	通勤･通学に不便	人間関係煩わしい	働く場少ない	その他	不明	合計
10歳代	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	2
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	2	1	0	18	2	10	3	10	3	2	28
	7.1%	3.6%	0.0%	64.3%	7.1%	35.7%	10.7%	35.7%	10.7%	7.1%	100.0%
30歳代	1	3	1	16	4	6	2	9	4	1	26
	3.8%	11.5%	3.8%	61.5%	15.4%	23.1%	7.7%	34.6%	15.4%	3.8%	100.0%
40歳代	1	5	3	21	1	9	3	3	7	4	32
	3.1%	15.6%	9.4%	65.6%	3.1%	28.1%	9.4%	9.4%	21.9%	12.5%	100.0%
50歳代	2	5	5	21	0	11	3	4	4	10	38
	5.3%	13.2%	13.2%	55.3%	0.0%	28.9%	7.9%	10.5%	10.5%	26.3%	100.0%
60歳代	0	3	2	7	0	0	4	3	1	8	19
	0.0%	15.8%	10.5%	36.8%	0.0%	0.0%	21.1%	15.8%	5.3%	42.1%	100.0%
70歳以上	0	1	2	5	0	1	0	0	3	9	15
	0.0%	6.7%	13.3%	33.3%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	20.0%	60.0%	100.0%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	6	18	13	90	7	38	15	30	22	34	160
	3.8%	11.3%	8.1%	56.3%	4.4%	23.8%	9.4%	18.8%	13.8%	21.3%	100.0%

４．防災

地域の防災力についてお尋ねします
問 16　地震や津波に対する不安はありますか？



約半数の方が「漠然とした不安」を感じている。「差し迫って不安が大きい」も 35.3%と多く、全体として、地震や津波に対する不安はかなり強い状況であると考えられる。

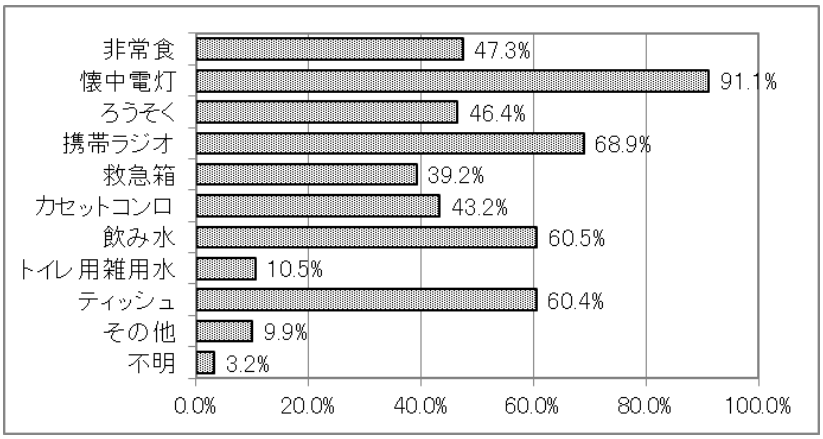
性別にみると、女性の方がやや不安感が強く、年齢別では、若年層の方がやや不安を感じているが、その差はさほど顕著ではなく、総じて不安を感じていることがわかる。

	問16地震･津波への不安						
問1性別	差し迫って不安大きい	漠然とした不安	あまり現実ではない	ほとんど気にせず	その他	不明	合計
男性	143	199	38	22	2	10	414
	34.5%	48.1%	9.2%	5.3%	0.5%	2.4%	100.0%
女性	177	258	25	17	3	12	492
	36.0%	52.4%	5.1%	3.5%	0.6%	2.4%	100.0%
不明	1	1	0	0	0	1	3
	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	321	458	63	39	5	23	909
	35.3%	50.4%	6.9%	4.3%	0.6%	2.5%	100.0%

	問16地震･津波への不安						
問2年齢	差し迫って不安大きい	漠然とした不安	あまり現実ではない	ほとんど気にせず	その他	不明	合計
10歳代	9	11	1	1	0	2	24
	37.5%	45.8%	4.2%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
20歳代	35	38	3	6	1	1	84
	41.7%	45.2%	3.6%	7.1%	1.2%	1.2%	100.0%
30歳代	40	69	4	7	1	3	124
	32.3%	55.6%	3.2%	5.6%	0.8%	2.4%	100.0%
40歳代	54	89	6	5	1	4	159
	34.0%	56.0%	3.8%	3.1%	0.6%	2.5%	100.0%
50歳代	62	86	17	4	1	4	174
	35.6%	49.4%	9.8%	2.3%	0.6%	2.3%	100.0%
60歳代	84	116	24	8	0	6	238
	35.3%	48.7%	10.1%	3.4%	0.0%	2.5%	100.0%
70歳以上	36	48	8	8	1	2	103
	35.0%	46.6%	7.8%	7.8%	1.0%	1.9%	100.0%
不明	1	1	0	0	0	1	3
	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	321	458	63	39	5	23	909
	35.3%	50.4%	6.9%	4.3%	0.6%	2.5%	100.0%

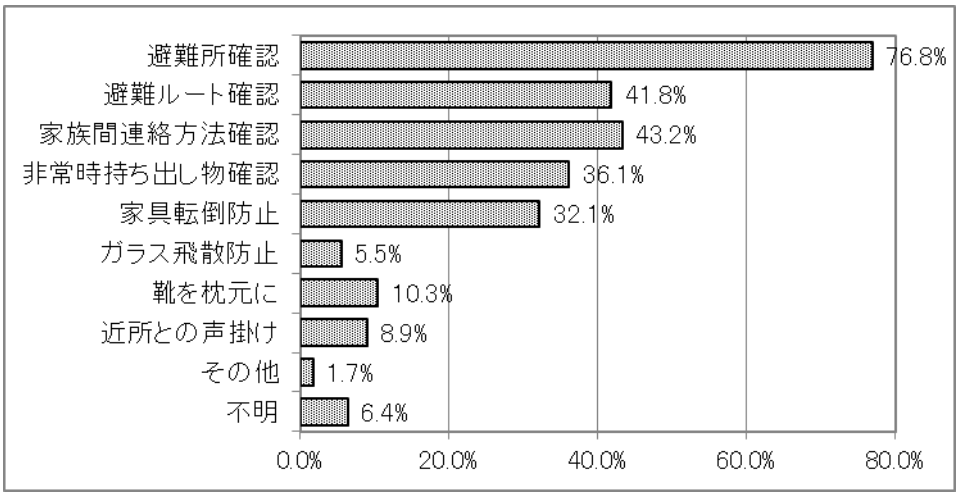
問17　あなたは災害に備えて、次のものを購入･準備していますか？（複数回答可）

災害に対する備え（備蓄）としては、9 割以上の方が「懐中電灯」をあげ、「携帯ラジオ」「飲み水」「ティッシュ」なども 6 割以上の方が準備している。一方で、「トイレ用雑用水」を備蓄している方は全体の 1 割程度と非常に少ない。



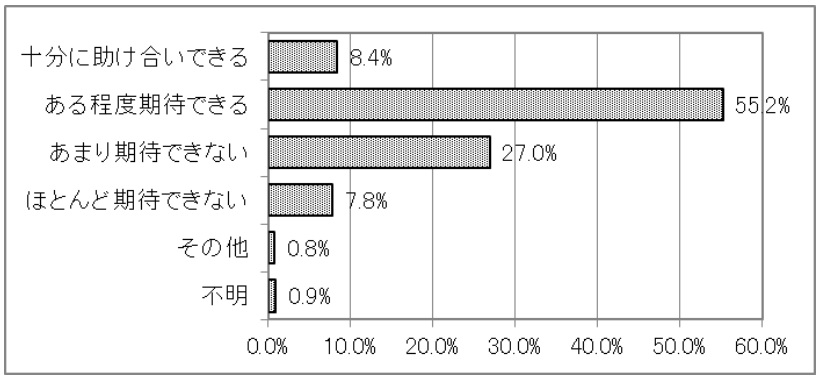
問 18　あなたは災害に備えて次の行動をとっていますか？

全体の 8 割近い方が、「避難所の確認」を行っており、「家族間での連絡方法の確認」や「避難ルートの確認」なども、4 割を超える方がすでに行っている。一方で、「ガラスの飛散防止対策」や「靴を枕元に置く」といった対策はほとんどの方がとっていない状況も明らかとなった。また、「近所との声掛け」も 1 割に満たないが、これは、日常的な近所付き合いがあるため、災害に備えて特段の声掛けは行っていないことを意味していると考えられる。



問 19　地震や洪水などの災害時に、ご近所同士で助け合うことができますか？

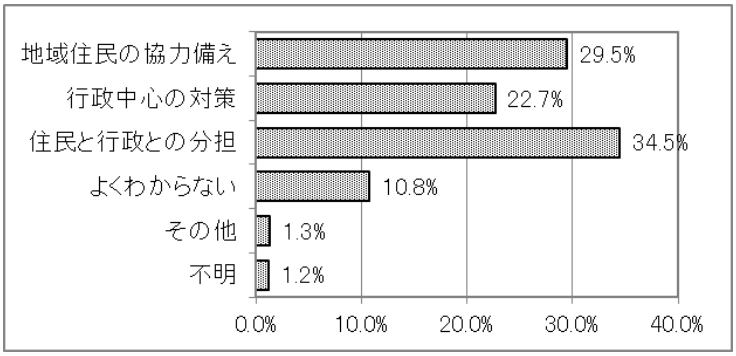
全体の 55.2%の方が近所同士の助け合いを「ある程度期待できる」と回答しており大規模災害時の減災のために、近隣のコミュニティが機能しうることを示唆している。



問20　地震などの大きな災害が起きることを想定した場合、事前に何をしておくべきでしょうか？　最も重要と思われることを１つだけ選んでください。

もっとも多い回答は「住民と行政との分担」（34.5%）であり、「地域住民による協力」が次いでいる。「行政中心の対策」の回答が 2 割を超えており、これら 3 つの考え方が拮抗していることがわかる。

性別でみると、女性の方が、「地域住民による協力」が重要だと考える方の割合がやや高い。男性は行政の役割をやや重視している傾向が読み取れる。

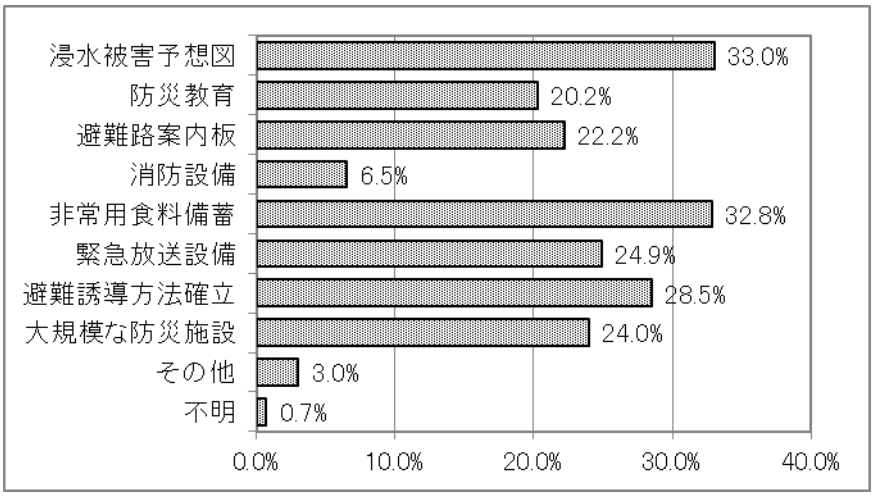


	問20事前に重要なこと						
問1性別	地域住民の協力備え	行政中心の対策	住民と行政との分担	よくわからない	その他	不明	合計
男性	107	106	149	43	8	1	414
	25.8%	25.6%	36.0%	10.4%	1.9%	0.2%	100.0%
女性	160	100	164	55	4	9	492
	32.5%	20.3%	33.3%	11.2%	0.8%	1.8%	100.0%
不明	1	0	1	0	0	1	3
	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	268	206	314	98	12	11	909
	29.5%	22.7%	34.5%	10.8%	1.3%	1.2%	100.0%

問 21　今後特に重要だと思われる地震・津波対策を２つ以内で選んでください。

「浸水被害予想図」と「非常用食料の備蓄」がともに約3割と高くなっており、「避難誘導方法の確立」も28.5%である。

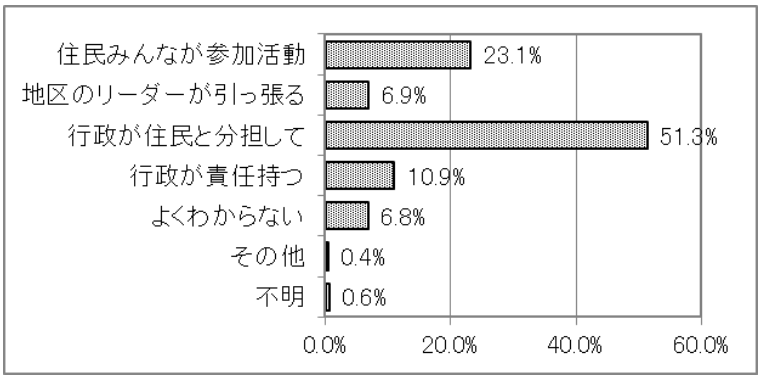
性別でみると、男性では、「浸水被害予想図」の作成が37.0%と最も多く、次いで「非常用食料の備蓄」が挙げられている。一方、女性では、「非常用食料の備蓄」が35.6%と最も多く、「浸水被害予想図」「避難誘導方法の確立」がそれに次いでいる。



	問21今後重要な地震･津波対策										
問1性別	浸水被害予想図	防災教育	避難路案内板	消防設備	非常用食料備蓄	緊急放送設備	避難誘導方法確立	大規模な防災施設	その他	不明	合計
男性	153	83	88	26	122	92	116	107	15	1	414
	37.0%	20.0%	21.3%	6.3%	29.5%	22.2%	28.0%	25.8%	3.6%	0.2%	100.0%
女性	146	101	113	33	175	134	143	110	12	4	492
	29.7%	20.5%	23.0%	6.7%	35.6%	27.2%	29.1%	22.4%	2.4%	0.8%	100.0%
不明	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	3
	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	300	184	202	59	298	226	259	218	27	6	909
	33.0%	20.2%	22.2%	6.5%	32.8%	24.9%	28.5%	24.0%	3.0%	0.7%	100.0%

５．まちづくりに対する意識

あなたのまちづくりに対する意識についてお尋ねします。
問22　これからのまちづくりは、誰が中心となって担っていくべきとお考えですか？



全体の約半数の方が、「行政が住民と分担して」まちづくりを進めるべきだと考えており、「住民みんなが参加して活動」すべきだとの回答は、23.1%で次いでいる。「行政が責任を持つべき」との回答はわずか1割であり、全体としては、行政が中心となりつつ、住民も協力、分担するという考え方が大勢を占めている。

男女を比較すると、いずれも、「行政が住民と分担して」まちづくりを進めるべきとの回答が最も多いが、女性の方が、「住民みんなが参加して活動」の比率がやや高く、男性では「行政が責任を持つべき」がやや多くなっている。

美浜町への住み始めの時期別にみると、Ｕターンした方は、「行政が住民と分担して」を回答する方が多い。また、生まれてからずっとの方は、「住民みんなが参加活動」、「地区のリーダーが引っ張る」と回答する傾向が多い。

	問22まちづくりの担い手							
問1性別	住民みんなが参加活動	地区のリーダーが引っ張る	行政が住民と分担して	行政が責任持つ	よくわからない	その他	不明	合計
男性	88	29	220	52	23	2	0	414
	21.3%	7.0%	53.1%	12.6%	5.6%	0.5%	0.0%	100.0%
女性	122	34	245	46	39	2	4	492
	24.8%	6.9%	49.8%	9.3%	7.9%	0.4%	0.8%	100.0%
不明	0	0	1	1	0	0	1	3
	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	210	63	466	99	62	4	5	909
	23.1%	6.9%	51.3%	10.9%	6.8%	0.4%	0.6%	100.0%

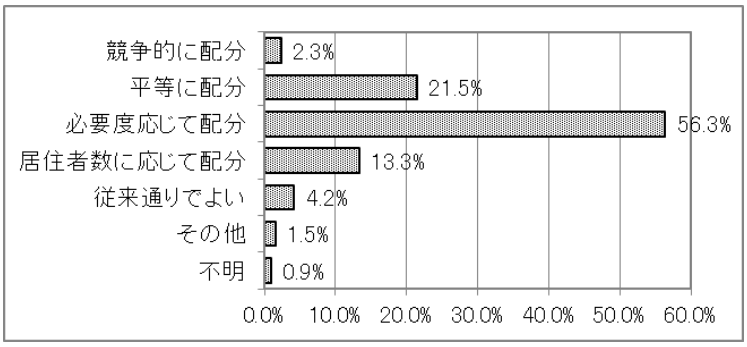
	問22まちづくりの担い手							
問9住み始め	住民みんなが参加活動	地区のリーダーが引っ張る	行政が住民と分担して	行政が責任持つ	よくわからない	その他	不明	合計
生まれてからずっと	76	27	161	31	20	2	1	318
	23.9%	8.5%	50.6%	9.7%	6.3%	0.6%	0.3%	100.0%
美浜に移り住む	97	27	224	48	37	2	1	436
	22.2%	6.2%	51.4%	11.0%	8.5%	0.5%	0.2%	100.0%
Ｕターン	29	5	72	15	5	0	2	128
	22.7%	3.9%	56.3%	11.7%	3.9%	0.0%	1.6%	100.0%
不明	8	4	9	5	0	0	1	27
	29.6%	14.8%	33.3%	18.5%	0.0%	0.0%	3.7%	100.0%
合計	210	63	466	99	62	4	5	909
	23.1%	6.9%	51.3%	10.9%	6.8%	0.4%	0.6%	100.0%

問23　まちづくりのための資源（予算や人）の配分については、どのようにお考えですか？

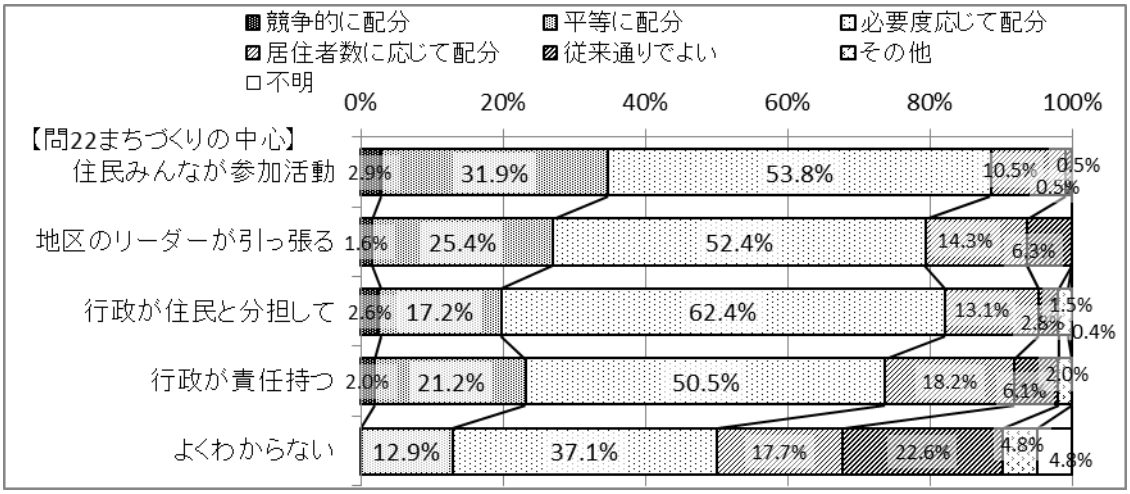
「必要度に応じて分配」という考え方に、過半数の約56%の方が賛同している。「平等に配分」も21.5%の回答がある一方で、「競争的に配分」はわずか2.3%に過ぎない。全体としては、地域の実情に応じつつも、平等な配分を望んでいる方が非常に多い。

居住年数別にみると、居住年数が短いほど、「平等に配分」すべきだとの考えが多くなってくるが、その他の選択肢に関しては顕著な差は見られない。

問22「まちづくりの中心」とクロス集計すると、まちづくりは「住民みんなが参加活動」すべきだと考えている方は、「必要度に応じて配分」を望んでいる。



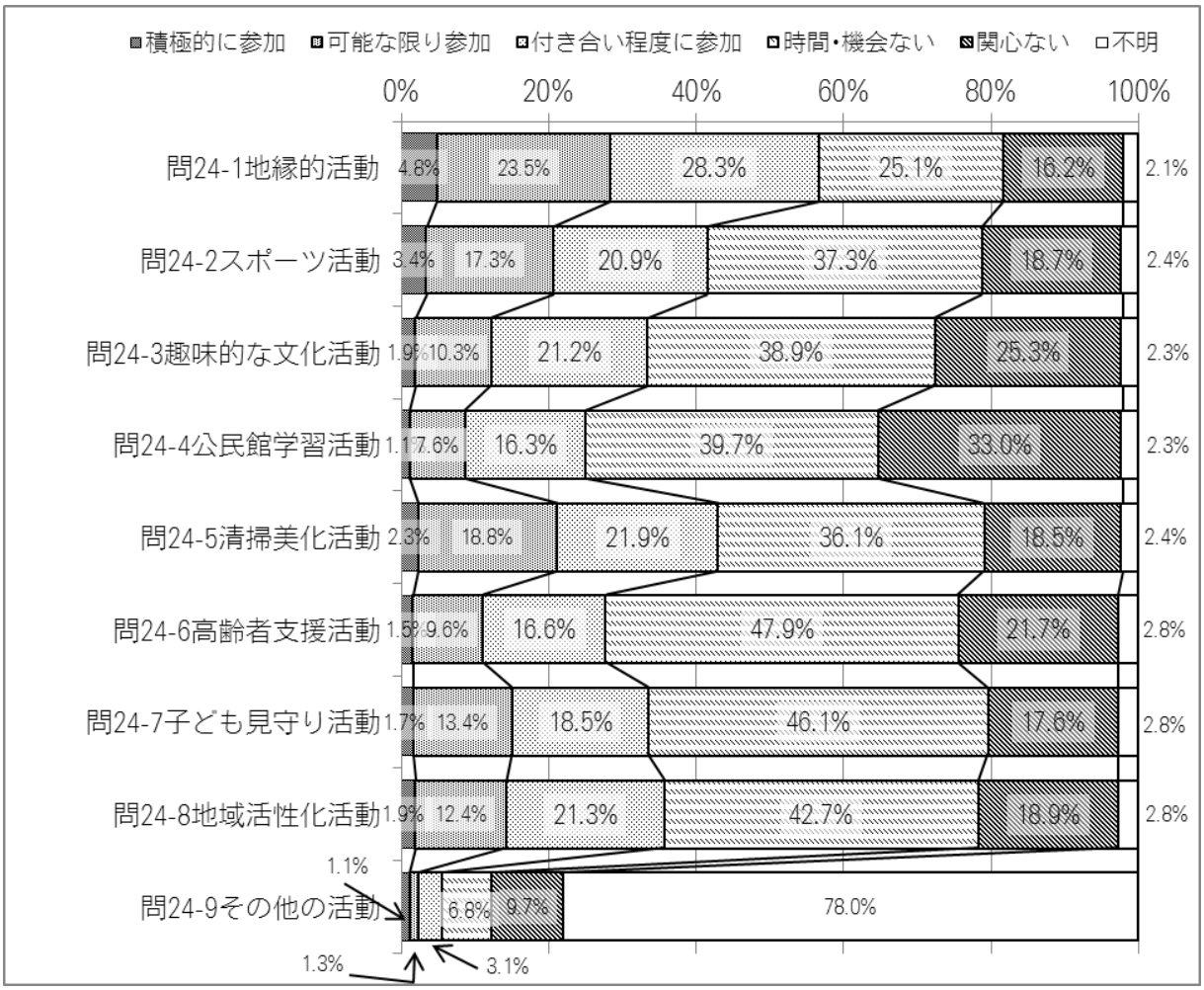
	問23まちづくりのための資源の配分方法							
問8居住年数	競争的に配分	平等に配分	必要度応じて配分	居住者数に応じて配分	従来通りでよい	その他	不明	合計
30年以上	10	88	238	54	21	6	5	422
	2.4%	20.9%	56.4%	12.8%	5.0%	1.4%	1.2%	100.0%
20-30年	4	26	89	27	6	5	1	158
	2.5%	16.5%	56.3%	17.1%	3.8%	3.2%	0.6%	100.0%
10-20年	0	39	118	26	6	3	0	192
	0.0%	20.3%	61.5%	13.5%	3.1%	1.6%	0.0%	100.0%
5-10年	4	17	22	7	3	0	1	54
	7.4%	31.5%	40.7%	13.0%	5.6%	0.0%	1.9%	100.0%
5年未満	3	24	41	7	1	0	0	76
	3.9%	31.6%	53.9%	9.2%	1.3%	0.0%	0.0%	100.0%
不明	0	1	4	0	1	0	1	7
	0.0%	14.3%	57.1%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	100.0%
合計	21	195	512	121	38	14	8	909
	2.3%	21.5%	56.3%	13.3%	4.2%	1.5%	0.9%	100.0%



問24　あなたの地域活動への参加についてお尋ねします。

「地縁的な活動」については、「積極的な参加」「可能な限り参加」を合わせて約3割程度であり、最も熱心に参加している。「清掃美化活動」に関しても、比較的積極的な参加が見られる。

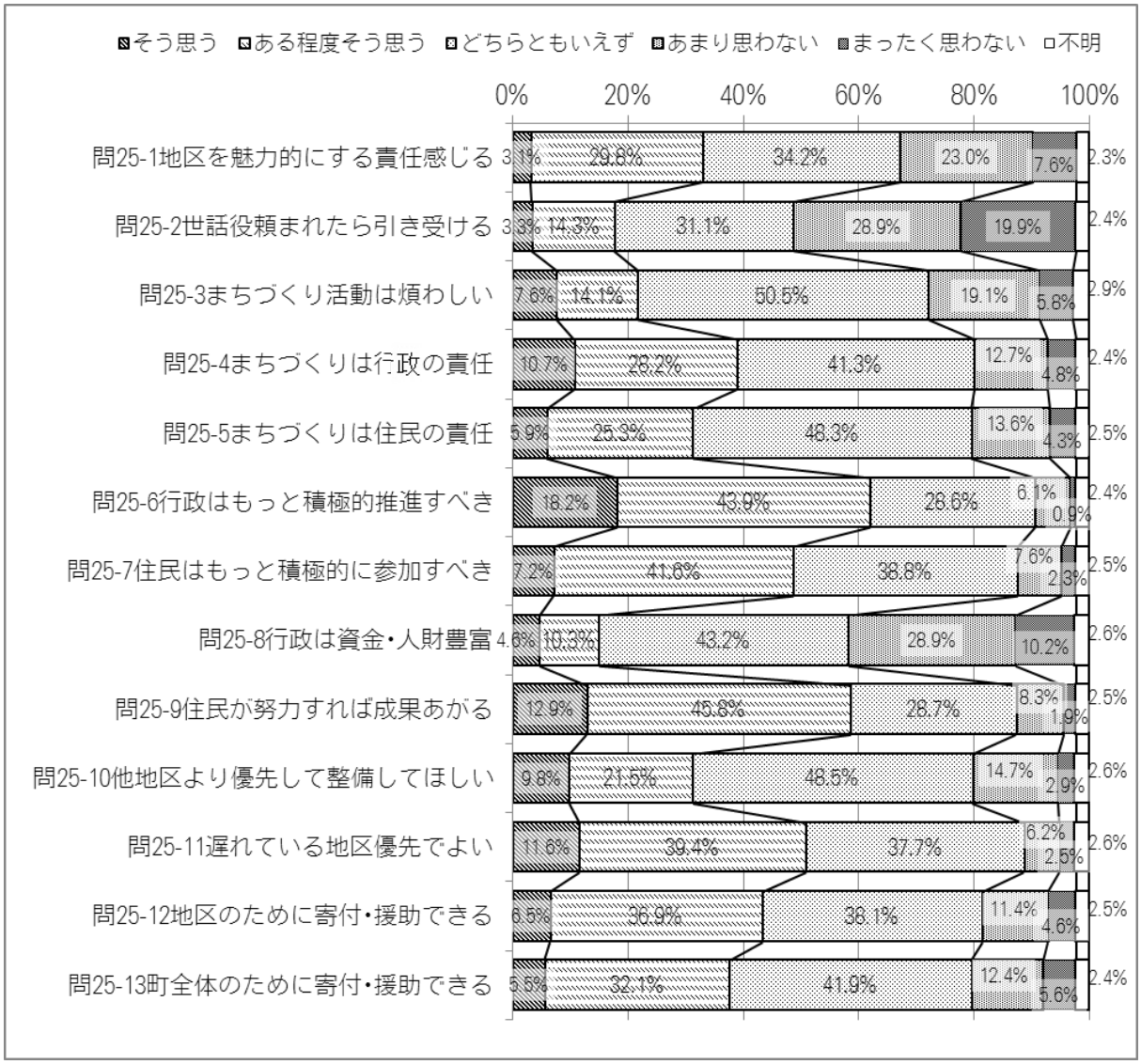
一方、それ以外の活動に関しては、積極的な参加の割合は少なく、「時間や機会がない」との回答が多数を占めている。



問25　お住まいの地区のまちづくりについて、どのようにお考えですか？

「そう思う」との回答比率が最も高かった項目は、「行政はもっと積極的にまちづくりを推進すべき」であり、「ある程度そう思う」を含めると、約6割の方が、行政のさらなる積極性を求めているが、同時に、「行政はまちづくりの資金・人財が豊富」だと考えている方は14.9%に過ぎない結果となっている。

一方、「住民が努力すれば成果があがる」と考えている方は約6割に達しており、また、「住民はもっと積極的にまちづくりに参加すべき」と考えている方も約半数である。これらのことから、住民自ら積極的にまちづくりに参加できれば、成果が大いに期待できると考えており、同時に行政に対して人財の育成などを含めて、まちづくりへのさらなる主体的な参加を求めていることがわかる。



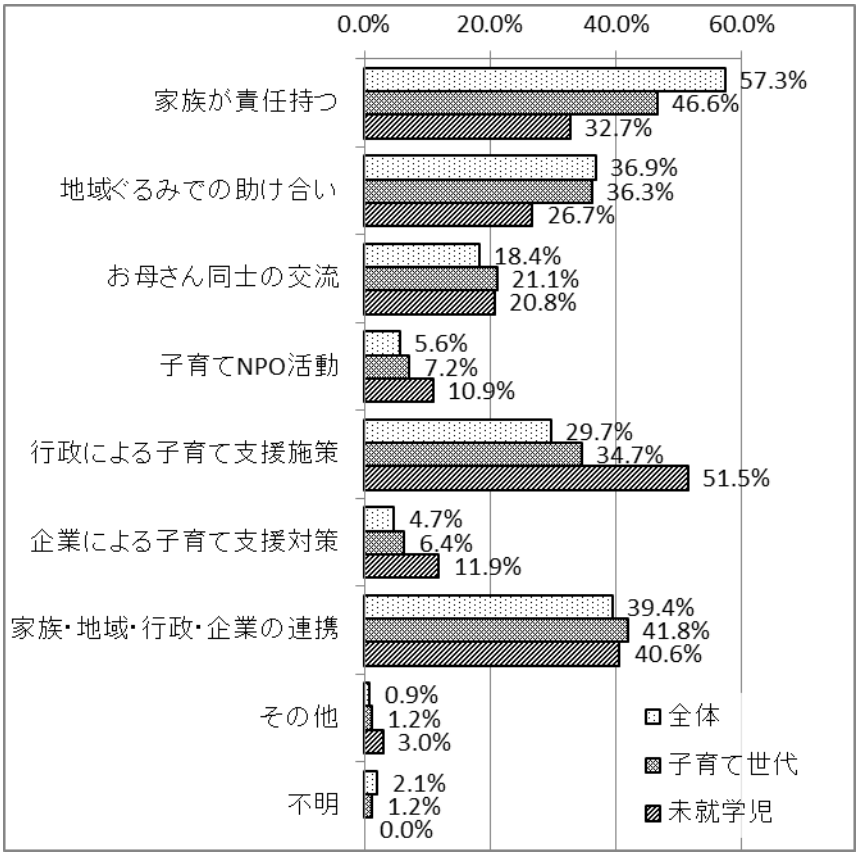
問26　子どもを安心して育てていくために、今後、特に重要なことは何ですか？
該当するものを２つ以内で選んでください。

全体の57.3%の方が、「家族が責任を持つ」と考えており、次いで、「家族・地域・行政・企業の連携」「地域ぐるみでの助け合い」が取り上げられている。つまり、家族の責任を第一義的に重要視していると同時に、子育てには様々なセクターが連携することも重要であると考えていることになる。

家庭に乳幼児・未就学児・小中学生がいる世帯（子育て世帯）と、回答者全体とを比較すると、子育て世帯では、「家族が責任を持つ」との回答割合が約10%低くなり、逆に、「行政による子育て支援対策」や「お母さん同士の交流」などを求める方が多くなる傾向が読み取れる。

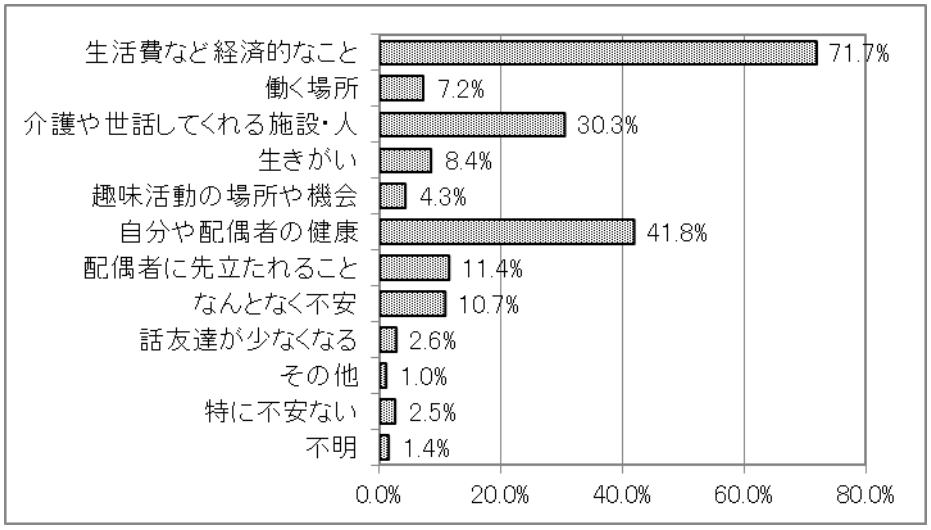
さらに、乳幼児と未就学児がいる世帯のみに絞ってみると、「家族が責任を持つ」との回答は、32.7%と、全体の57.3%から大幅に減少し、「行政による子育て支援対策」が51.5%と過半数に達している。

これらの結果から、乳幼児ならびに未就学児を抱える世帯では、家族での育児に対する行政からの支援をとりわけ必要としていることが明らかになった。



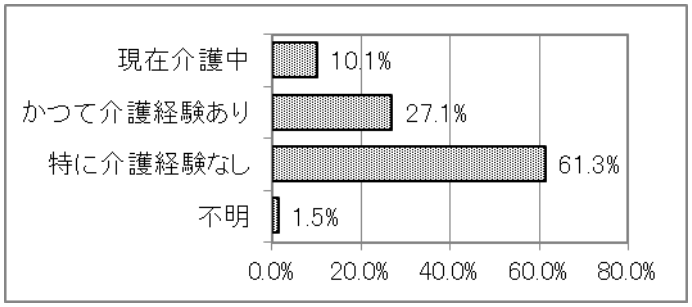
問27　あなたが高齢者になった時（なる時）、何に対して特に不安を感じますか？
あてはまるものを２つ以内で選んでください。

全体の7割以上の方が、「生活費などの経済的なこと」に対して特に不安を感じている。次いで、「自分や配偶者の健康のこと」が約4割である。「介護や世話をしてくれる施設や人」についても、3割の方が不安に感じている。



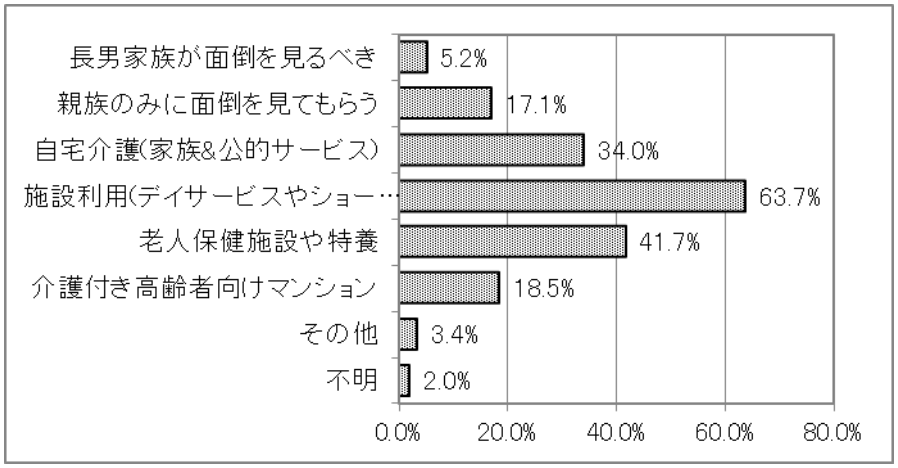
問28　あなたご自身は、ご家族の方の介護、介助を経験されたことがありますか？

介護経験に関しては、約6割が「特に介護経験なし」と回答している。



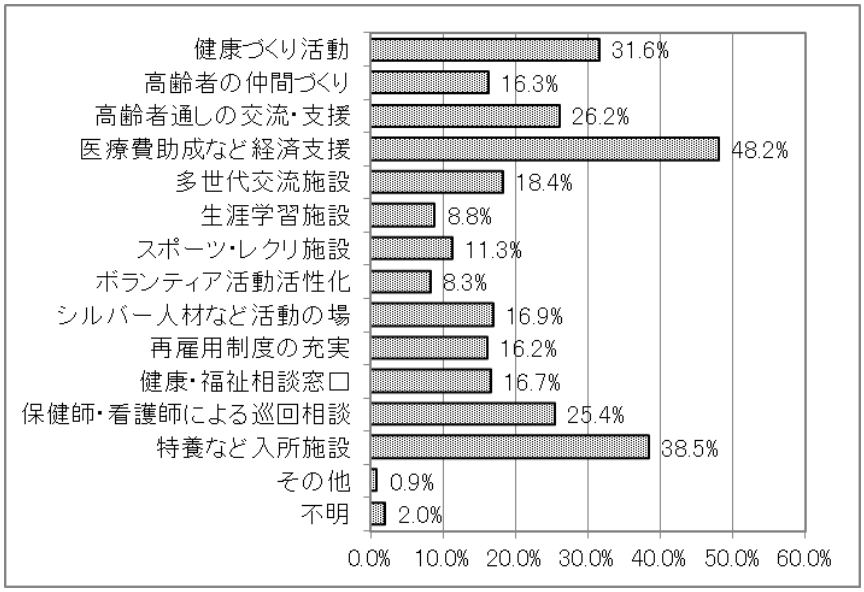
問29　あなたが高齢になられる（なられた）時、ご自身の介護についてどうお考えですか？
あなたのお考えに近いものを２つ以内で選んでください。

全体の約60%の方が、「家族に負担をかけないように､デイサービスやショートステイを利用したい」と回答しており､「自宅でホームヘルパーなどのサービスを受けながら家族に面倒をみてもらいたい」（34.0%）とあわせ、各種の福祉制度を活用しながら自宅で介護してもらうことを希望している。「長男家族が面倒をみるべきだ」はわずか5.2%、「家族や親戚など身内の誰かに面倒をみてもらいたい」も17.1%にとどまっている。



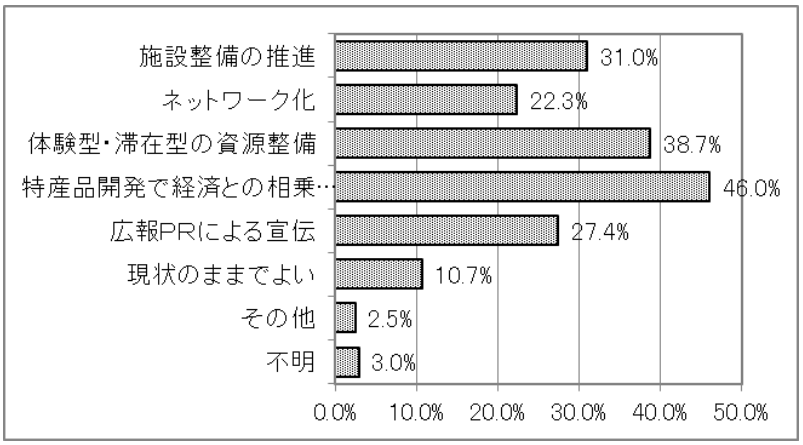
問30　これからの高齢者対策として、どのような分野が特に重要と思いますか？
あてはまるものを３つ以内で選んでください。

全体の約半数が「医療費などの経済的な支援」を重要だと考えており、次いで、「特養などの入所施設」と「健康づくり活動」がともに3割以上となっている。つまり、日常的な健康づくりで体調を維持し、病気の際にはしっかりとした経済的な支援が受けられ、ある種のセーフティネットとしての特養などの施設が整備されている状況を求めていることになる。



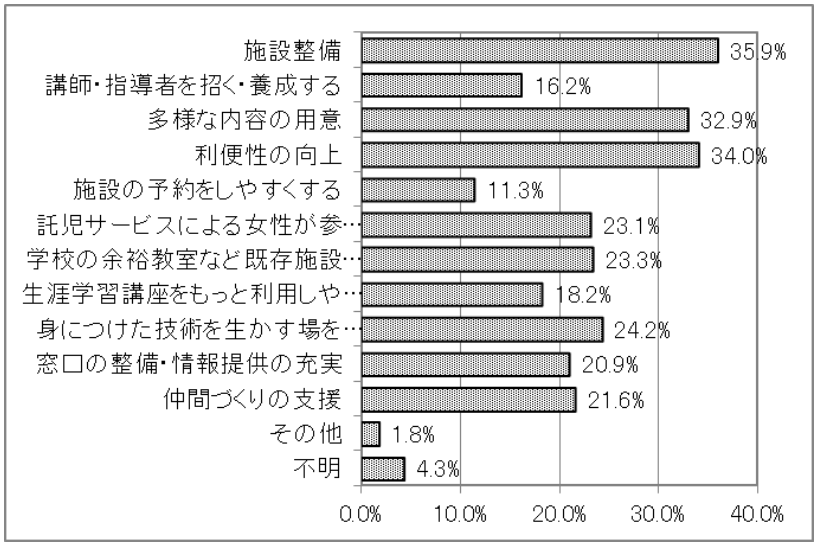
問31　観光の振興についてはどうお考えですか？　該当するものを２つ以内で選んでください。

全体の約半数程度の方が、「特産品を開発し、観光振興だけでなく経済の相乗効果を図る」ことに期待しており、「自然を生かした体験型・滞在型の観光資源の整備を図る」に対する期待も大きい。



問32　生涯学習の振興のために、行政はどのような役割を果たすべきだとお考えですか？　該当するものを３つ以内で選んでください。

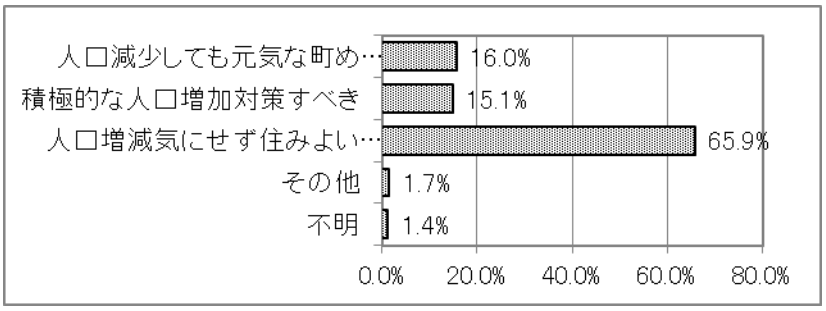
「活動できる施設の整備」「初心者から高度な内容まで多様な内容」「利用料の軽減、利用時間の延長などの利便性向上」が、ともに3割以上となっており、ハードからソフトに至る幅広い施策が求められている。



６．まちの将来像

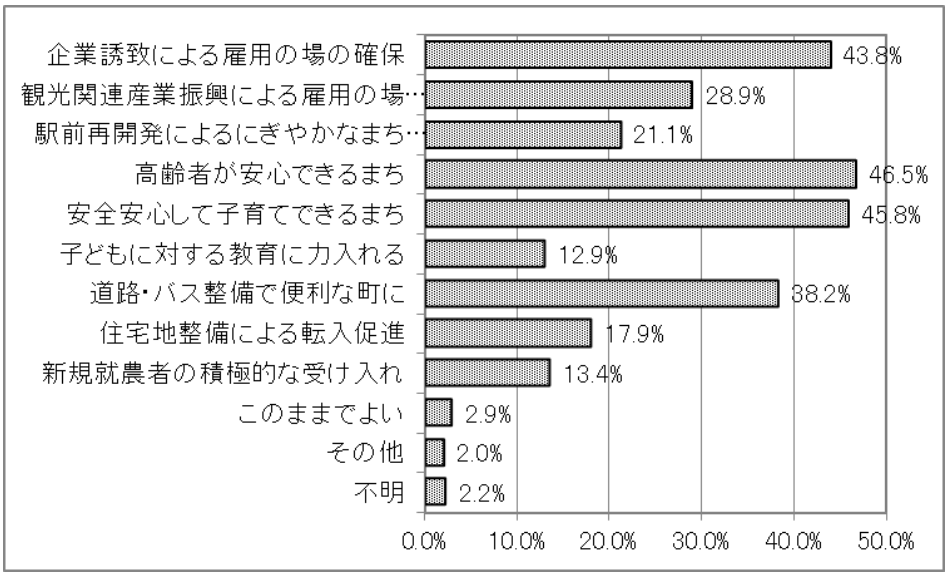
問33　5年ごとに行われる国勢調査結果によれば、平成22年には美浜町の人口が初めて減少になりました。我が国全体が人口減少時代を迎える中で、今後、町の人口とまちづくりはどう考えていけばよいと思われますか？

「人口の増減を気にするよりも、住みやすいまちづくりを進めるべきだ」が全体の65.9%に達しており、他の選択肢はいずれも2割に満たない。これは、住みよいまちづくりが最も重要と考えていることの現れと解釈できるが、同時に、人口減少によって、今後どのような影響が顕在化してくるかがまだ明らかでないことも背景として考えられる。



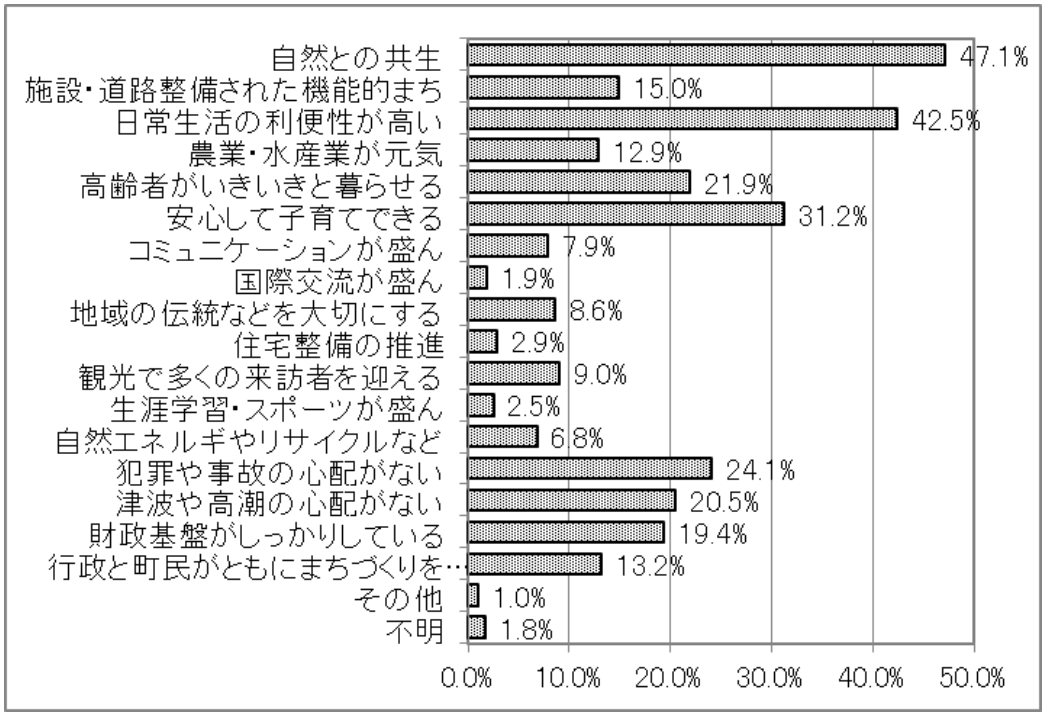
問34　今後とも町の活力を維持し、大幅に人口が減少することがないようにするためには、どのような対策が特に重要だと思われますか？　該当するものを３つ以内で選んでください。

「企業誘致による雇用の場の確保」「医療施設の整備や福祉サービスの充実による、高齢者が安心して暮らせるまちづくり」「安全・安心して子育てができるまちづくり」の3つが、ともに4割以上の支持を得ている。また、「道路・バス整備による利便性の向上」も4割近い方が支持している。一方で、「住宅地整備による転入促進」や「新規就農者の受け入れ」など、積極的に町外から人を呼び寄せる対策については、支持が低い。



問35　あなたは、美浜町のこれからの町の姿として、どのようなイメージがふさわしいとお考えですか？　該当するものを３つ以内で選んでください。

「穏やかな自然と共生したまち」「買い物や医療など日常生活の利便性が高いまち」が、ともに4割以上の方から回答されている。つまり、現状の生活環境の中で、現状の満足度が比較的評価が高い自然と、今後の取り組みの重要度が高い利便性という二つの側面が、将来の町のイメージとして選択されていることになる。「安心して子育てができるまち」「犯罪や事故のないまち」についても、同様のことがいえる。



□　調査結果のまとめ

１．回答者の属性

・ 回答者の 46%が男性である。
・ 60 歳代が全体の 26%、50 歳代が 19%であり、中高年の回答者がやや多い。
・ 高齢者がいる世帯は全体の 3 割以上占めている一方、乳幼児がいる世帯は数%にすぎない。
・ 回答者の約 3 割が「無職」あるいは「家事専念」であり、会社員も約 3 割である。
・ 通勤先は、自宅が 22.0%、美浜町内が 23.5%である。会社員の通勤先を見ると、約 1/4 が町内、約 6 割が知多半島内となっている。
・ 全体の 9 割以上が「戸建て持ち家」に居住しており、戸建て率がきわめて高い。
・ 町内での居住年数は、30 年以上の方が全体の半数近くに達し、非常に長い。同時に、「生まれてからずっと」住み続けている方は全体の 35%にとどまり、町外から美浜に移り住んだ方が 48%と半数近くに達していることが特徴である。
・ 転入してきた理由としては、「結婚」が 37.4%と最も多く、「その他」「転職・転勤」がそれに続いている。理由としては、「先祖代々の土地がある」が 37.9%と全体の 3 割を占め、次いで、「その他」「住宅価格が手ごろ」が挙げられている。

２．生活環境評価

・ 各項目に対する評価結果を得点化すると、評価得点が高い項目は、「自然の豊かさ」「町の静けさ」「伝統的な催し」などが挙げられ、逆に評価得点が低い項目は、「電化製品などの買い物」「夜間の安全性」「津波に対する安全性」などが挙げられる。
・ 各項目に対する評価結果を得点化すると、重要度を強く認識している項目は、「津波高潮に対する安全性」「医療施設」「夜間の安全性」などである。
・ 満足度と重要度の相関をみると、「津波高潮に対する安全性」「夜間の安全性」「町のきれいさ」などは、満足度が低い一方で、重要度が高いと評価されており、今後の取り組みが特に重要と考えられる。
・ 「医療施設」や「空気のきれいさ」は、現状の満足度および今後の重要度がともに高く、現状を維持することが強く期待されている。
・ 一方、「歴史を感じられる場所の存在」「伝統的な催しの存在」など文化性に関わる項目の多くは、現状の満足度が高く、今後の重要度は比較的低い。これは、現状を維持すればよいという意味で重要度が低くなっていると推測できる。
・ 生活環境全般に対しては、「ある程度満足」の回答が約 4 割あり、満足度は比較的高い。性別による顕著な差は認められず「生まれてからずっと」住んでいる方は、「美浜町に移り住んだ」や「Ｕターン」と比較して評価がやや高い。

３．まちへの愛着

・ 全体の半数以上が「居住地区への愛着」を感じているが、一方で、「地区の一体感」を感じる方は、3 割に満たない。
・ 性別でみると、いずれの項目も、女性の方が愛着度が高い。
・ まちづくりは誰が担うべきか（問 22）と愛着度をクロス集計すると、「住民みんなが参加活

動」と答えた方は愛着度が高く、逆にまちづくりは「行政が責任持つ」と回答された方は相対的にみて愛着度が低い。つまり、まちづくりは住民主体で担う意識が強い方ほど、地区への愛着度が強いことになる。「 町への愛着」については、まちづくりには「行政が責任を持つ」と考える方の方が、強い愛着を感じている結果となった。

- 今後の居住については、「できるだけ住み続けたい」が過半数を超え、「当分住み続けたい」を合わせると、約 75%の方が定住意欲を持っている。「できれば転居したい」という回答は全体の 14.2%に過ぎない。
- 住み続けたい理由としては、「先祖伝来の土地がある」が過半数占め、次いで「長年住み続けて愛着がある」も半数近い。
- 一方、逆に、転居したい理由としては、「生活に不便」が半数を超え、「通勤・通学に不便」など、利便性に対する不満が、転居希望へとつながっている。

4．防災

- 約半数の方が「漠然とした不安」を感じている。「差し迫って不安が大きい」も含め、地震や津波に対する不安はかなり強いと考えられる。
- 災害に対する備えとしては、9 割以上の方が「懐中電灯」をあげ、「携帯ラジオ」「飲み水」「ティッシュ」なども多い。一方、「トイレ用雑用水」を備蓄している方は全体の 1 割に過ぎない。
- 「避難所の確認」は全体の 8 割を超え、「家族間での連絡方法の確認」や「避難ルートの確認」なども 4 割を超えている。「近所との声掛け」も非常に少ないが、これは、日常的な近似付き合いがあるため、災害に備えて特段の声掛けは行っていないことを意味していると考えられる。
- 全体の約半数が、近所同士の助け合いを「ある程度期待できる」と回答しており、大規模災害時の減災のために、近隣のコミュニティが機能しうることを示唆している。
- 大きな災害に対する備えとして、「住民と行政との分担」が最も多くが、「地域住民による協力」、「行政中心の対策」の 3 つの考え方がおおむね拮抗している。
- 今後重要な対策としては、「浸水被害予想図」、「非常用食料の備蓄」、「避難誘導方法の確立」などが挙げられる。

5．まちづくりに対する意識

- 全体の約半数の方が、「行政が住民と分担して」まちづくりを進めるべきだと考えており、「住民みんなが参加して活動」も多い。全体としては、行政が中心となりつつ、住民も協力・分担するという考え方が大勢を占めている。
- 過半数が「必要度に応じて分配」すべきと考えており、一方で、「競争的に配分」は極めてわずかである。全体として、地域の実情に応じつつも、平等な配分を望んでいる方が非常に多い。
- 「地縁的な活動」や「清掃美化活動」に関しても、比較的積極的な参加が見られる。一方、それ以外の活動に関しては、積極的な参加の割合は低く、「時間や機会がない」との回答が多数を占めている。
- 「行政はもっと積極的にまちづくりを推進すべき」との考えが多く、行政のさらなる積極性を求めている。同時に、「行政はまちづくりの資金・人財が豊富」だと考えている方は非常に

少なく、行政に対して厳しい見方をしている。
・ 一方、「住民が努力すれば成果があがる」「住民はもっと積極的にまちづくりに参加すべき」と考えている方が約半数を占め、住民自ら積極的にまちづくりに参加できれば、成果が大いに期待できると考えている。

６．育児

・ 育児については、「家族が責任を持つ」、「家族・地域・行政・企業の連携」「地域ぐるみの助け合い」が取り上げられ、家族の責任を第一義的に重要視していると同時に、子育てには様々なセクターが連携することも重要であると考えている。
・ 乳幼児ならびに未就学児を抱える世帯では、家族での育児に対する行政からの支援をとりわけ必要としている。

７．高齢化への対策

・ 全体の 7 割以上の方が、「生活費などの経済的なこと」に対して特に不安を感じ、次いで、「自分や配偶者の健康のこと」が約 4 割である。
・ 約 6 割が「特に介護経験なし」と回答している。
・ 「家族に負担をかけないように、デイサービスやショートステイを利用したい」など、各種の福祉制度を活用しながら自宅で介護してもらうことを希望している。「長男家族が面倒をみるべきだ」は極めて少ない。
・ 全体の約半数が「医療費などの経済的な支援」を重要だと考えている。日常的な健康づくりで体調を維持し、病気の際には経済的な支援が受けられ、ある種のセーフティネットとしての特養などの施設が整備されている状況を求めている。

８．観光振興

・ 全体の約半数が、「特産品を開発し、観光振興だけでなく経済の相乗効果を図る」ことに期待しており、「自然を生かした体験型・滞在型の観光資源の整備を図る」に対する期待も大きい。

９．生涯学習

・ 「活動できる施設の整備」「初心者から高度な内容まで多様な内容」「利用料の軽減、利用時間の延長などの利便性向上」など、ハードからソフトに至る幅広い施策が求められている。

10．まちの将来像

・ 「人口の増減を気にするよりも、住みやすいまちづくりを進めるべきだ」が全体の 65.9%に達している。
・ 「企業誘致による雇用の場の確保」「医療施設の整備や福祉サービスの充実による、高齢者が安心して暮らせるまちづくり」「安全・安心して子育てができるまちづくり」、「道路・バス整備による利便性の向上」に対する支持が多い。
・ 一方で、「住宅地整備による転入促進」や「新規就農者の受け入れ」など、積極的に町外から人を呼び寄せる対策については支持が低い。

□　自由記述一覧

生活環境評価に関わる記述	件数
松林の再生	1
空地に季節の花を咲かせる	1
空地を利用した企業誘致による雇用の確保	1
悪臭がひどく、夏は厳しい	3
荒れた田畑や山林が増えているので、意欲のある農家に貸与し農業を振興する	2
安心安全に暮らせるようにして欲しい	2
安全設備等の設置に対する対応の遅さ、知多南部線の早期開通をお願いしたい	1
意識を向上させるため、住民の声を聞く耳を持つ	1
移動スーパーやタクシー等、交通弱者への配慮	1
色々回れる、コミュニティバスがあると良い	1
海の波上げが汚い	1
駅がなくなってしまい、本当に不便だ	1
駅周辺があまりにも暗く、寂しい	2
駅での若者の喫煙、一般道の車の暴走、治安が悪化するので啓発看板を設置する	1
駅の放置自転車を撤去する	2
海岸清掃に力を入れる	1
海岸の砂の飛散をなんとかするなど、もう少し環境保全に力を入れてもらいたい	1
街灯の設置、安全な歩道の設置、交差点の右折矢印の設置、道路の拡幅	4
街灯の設置や道の掃除などをして、子どもの安全を確保して欲しい	4
買い物や外食に車を使用しなくても行けるように、店を増やすと便利である	4
各家庭でごみを焼却するので、生活環境が悪い	1
学生の町という感じがしない	1
観光ＰＲを頑張る	1
観光協会や漁業協同組合は原点に戻り考えるべきである	1
観光施設の整備や新しい観光スポットづくりによる地域活性化を図る	2
観光や水産業のためにも海の環境を保全して欲しい	2
休日の渋滞がひどいので、移り住んで良かったと思える道づくりを行う	1
近所に剪定せず枝が伸び放題の家があるので、行政が何か考えて欲しい	2
車に乗れず、店も少なく不便なので、生きている間にもう少し便利にして欲しい	1
ゲームセンターなど、子どもが遊べるような場所を増やして欲しい	1
元気に暮らしたい	1
現在、便利で静かで住みやすいので、これ以上手を加えないで欲しい	2
公共交通機関の運行本数を増やし、夜遅くまで対応する交通機関があると良い	1
工場の悪臭を何とかしないと、人口増加にもつながらない	3
知多厚生病院から南下する県道を延長して欲しい	1
高齢者が住みやすくなるように、イベントの計画や公園を整備する	2
高齢者は買い物が不便なので、移動販売など、思いやりの町になって欲しい	3
河和駅から役場に向かう歩道の植木は危険である	1

河和駅前の渋滞解消と知多東部線の早期開通を望む	1
河和側の活性化	1
河和港を整備し観光スポットにする	1
河和台 2 丁目のお墓付近は路上駐車が多く迷惑である	1
河和の海を春はあさり、夏は海水浴など楽しむことのできる海にする	1
子育て支援に対する不安や不満が多く、次世代の世代は離れてしまう	1
子育てや福祉に力を入れる	1
子どもや若者が住み良い町にする	2
ごみ捨て場を快適で綺麗にして欲しい	2
ごみのポイ捨てを減らす	1
産業道路を早く造って欲しい	1
資源ごみ収集当番の時間を改め、働く人も参加しやすくして欲しい	1
地震や台風が起きないように願う	1
自然の多い美浜町とはいえ、県道沿いくらいは歩道や雑木林を整備する	1
自然の中で子育てができ、心穏やかな老後が過ごせるので良かった	1
自然豊かな美浜町が好きである	1
自然を活かした高齢者用の住宅地の整備	1
失業中で生活が大変なので、安定した生活を送るためにも雇用対策をして欲しい	1
自転車専用レーンが欲しい	1
自転車通学の中学生が危ないので、今後自転車道を設置して欲しい	1
住民の安全を最優先とした生活環境の改善	1
祝日もごみ収集をして欲しい	2
障がい者が住み良い町　＝　皆が住み良い町にしたい	1
障がい者の働ける職場が必要で、窓口の設置、協力を呼び掛けて欲しい	2
商業、工業の活性化	1
生活の利便性が高くなる施設を増やす	1
税金が高く、人口が減少している	1
積極的な企業誘致	1
他町から移り住んだが、住みやすいので満足している	1
タバコの吸い殻が多く落ちており、町で禁煙運動をすべきではないか	1
治安が悪くならないよう、安心して毎日生活できるようにして欲しい	1
地区にスーパーマーケットが欲しい	1
知多奥田駅周辺の再開発と国道 247 号線に通じる道に街灯を設置してはどうか	1
町内の草刈りによる環境美化を進めていきたい	1
住民が利用できるプールやスポーツ施設が欲しい	2
通学路付近の道路が渋滞し、速度オーバーの車が通るので危険	2
道路、交通機関、買い物など、本当に不便で仕方ない	2
道路にはみ出した緑樹、堀、石、ブロックなどを撤去し、安全を確保する	1
道路の綺麗さは町の発展と関係しているので、綺麗な風景を残して欲しい	1
道路の整備	1
図書館の利用時間を延長して欲しい	1

隣近所の付き合いも良く、健康に恵まれ幸せである	3
土日の道路渋滞を緩和する	1
共働きの家庭は、学童保育の必要性が高いので設置を望む	1
南部小学校通学路の歩道と車道の区別が無く危ない	1
西側への公園を作って欲しい（乳児・幼児が安全に遊べる遊具が欲しい）	5
日常的な買い物が不便なので、駅前開発と商店街の実現を望む	1
日本福祉大学の学生は、交通ルールや生活のマナーが悪いので教育して欲しい	1
布土駅の復活を願う	2
農業の保護も必要だが、野焼きや悪臭などの公害対策もすべきだ	2
野間地区では、ごみの収集日を守らない人がいるので監視員派遣などの対策を行う	1
花が溢れたまちづくりを行えば、住民も楽しく、訪れた人も楽しむ良い機会となる	2
ビオトープの場所が不適切で無駄だし、公園がなく子どもが遊べない	1
東海岸側の観光整備	1
東海岸は工場の汚染がひどい	1
人が集まりやすい町にしたい	1
ペットを飼いやすくする	1
保育所の整備、小児科を増やすなど、子育て環境の充実	1
母子家庭に優しい町になって欲しい	2
町が活気づくイベントを積極的に行う	1
町での生活に不安や不満は無いが、10 年後は日用品の買い物など生活に不安を感じる	1
未婚者を減らし明るい町にする	1
美浜町総合公園などを安心して利用したい	4
美浜町総合体育館周辺の駐車場を増やして欲しい	1
美浜町でもごみステーションを設置して欲しい	1
美浜町には苦しめられているので、意見はない	1
無理に現状を変えるのではなく、地産地消という根付いた文化を大事にする	1
夜間の安全性を確保する	1
山や海があり、住みやすい土地である	1
遊散歩道の整備	1
豊かな自然環境の保全	1
ゆったりとした環境の中で住民同士助け合う	1
老人ホームの入居待ちを無くす	1
若い人が町内で働くことができれば、人口減少は止まるのではないか	1
住み良い所に町営住宅を作る	2
治安が悪化しているのか、最近、パトカーがサイレンを鳴らしてよく走行している	1
終電が早すぎるので、名鉄知多新線の利便性を上げて欲しい	1
税金がもったいないので、美浜町のバスはやめるべき	1
町全体が街灯が少なくて暗く、女性には危険で、もっと明るい美浜町にして欲しい	1
街灯を増やして野犬を排除して欲しい	1
荒れた農地も多く、自然の中に溶け込む緑々した空間を造って欲しい	1
都市ガス、光ケーブルの普及	3

まちへの愛着に関わる記述	件数
身心共に健康であることが明るく元気な町づくりに大切である	1
新しい家族、若い人を巻き込みやすい講座を開講して欲しい	1
行事を通じた町の活性化	1
グリーンツーリズムを通じたまちづくりに貢献したい	1
まちづくりに興味が無くなってしまった	1
みんなで自慢できる町をつくる	1
良い地域にしたい、良い地域になって欲しいと願う	1
よそ者扱いをしない	1
家と土地があるから住んでいるだけで風習等、非常に鬱陶しい	1
小児科も無く、老人施設も少ないので、できれば町外へ出たい	1
子どもから高齢者まで安全に暮らせるように、地域同士の関わりや活動を活発にする	1
地域で助け合える町にしたい	1
地域の協力行事には参加したいが、子どもがいる世帯は何かと忙しい	1
地区行事に新しい人を巻き込み、新しい風を入れないと何も変わらない	1
古くからの住民と移り住んできた住民の交流が希薄	1
防災に関わる記述	**件数**
高潮、津波から人命が守れる安心安全な災害に強いまちづくりを期待したい（短期・長期）	3
安心安全な町に向けて、津波対策、堤防点検が必要だ	3
非常時に防災無線が聞こえなかったので改善が必要だ（音公害になっている）	7
海辺に住んでいるので、高台や丘陵部への住宅地整備、移転を進めるべきだと思う	2
子どもの避難場所の確保や防災教育に力を入れる	1
地震津波対策を最優先に実施して欲しい（避難マップ、高齢者でも逃げやすい避難所）	8
災害時に要介護で歩けない主人を連れて逃れることに不安を感じる	1
知多奥田北側谷トンネル付近の避難用の入山経路がわかりにくい	1
海岸線に命を守る道を造って欲しい	1
避難所が自宅より低いので津波の時は不安である	1
津波等の不安を取り除かなければ、子どもにすら美浜町に住み続けるようには言えない	1
まちづくりに対する意識に関わる記述	**件数**
医療機関の充実、ボランティアの充実、福祉の充実、高齢者の雇用、町営住宅の改善	1
子どもの予防接種に不活化ワクチンを導入して欲しい	1
乳児医療の導入、学童保育など、美浜町は全体的にやることが遅い老後の安心感がない	1
町議会の必要性をあまり感じないもっと（住民の声に耳を傾けて欲しい）	2
人口減少と高齢化の時代なので、町行政と町議会に方向性を示してもらいたい	1
収入に左右されることなく、安心して一生暮らせるようなまちづくりを目指して欲しい	3
財政基盤の健全化（借金を子ども世代に残さない）	3
小さな町でしか実現できない施策があるので、各分野で検討、工夫する機会が必要だ	2
地域の現状を知り、問題を先送りにせず有意義にまちづくりを進める	1
住民に優しい行政、思いやりの行政でまちづくりを進める	2
役場職員の意識を根本から変える必要がある（業務姿勢、窓口対応）	6
住民の意見を吸い上げ、町政に反映させて欲しい	3

長期計画による雇用の確保	1
町政をゼロから見直す	1
町の方向性を早期に決め、まちづくりを進める	1
行政とコミュニティが一体となったまちづくりを目指す	3
住民の意思がまちづくりに反映できるシステムを作る	2
まちづくりに大きな変化が無いので、大々的に改革して欲しい	1
住民のモラルを向上させるための行政のあり方、実行力の強さを望みたい	1
市民団体が活動しやすい支援制度を設けて欲しい	1
まちづくりは人づくりなので、地域リーダーを育てる（若い世代の参画）	5
気軽にボランティア活動ができるような体制づくりが必要だと思う	2
まちづくりは情報公開し、住民が知ることができるように情報発信する	1
高齢者が集まれる憩いの場、ふれあいの場を設置して欲しい	2
保育料の減免など、子育て支援を強化すべき（子どもの増加につながる）	3
学童保育や託児所等を増やすべき（働きたくても保育園に入れない）	4
歩いて行ける距離に公園がない（子どもが安心して遊べる場所を増やして欲しい）	1
不審者が出るなど、子どもたちが安心して通学できないのはかわいそうだ	1
人口を増やすために、若い人に魅力ある子育て支援や転入促進を行う	2
人口流出を防ぐために、多様な職種の雇用の創出を望む（若者も、高齢者も）	2
人口減少対策としての町営住宅の活用	2
企業誘致ができればよいと思う	2
住みやすい町であるために商業を充実させ、活気あるまちづくりを望みたい	1
何か全国にアピールできるモノ、イベントを作って観光客を呼んで活性化する	1
農水産物販売や飲食施設を整備する	1
絶景スポット、観光マップ・観光ルートなどをつくって欲しい	1
町のＰＲをしっかりやる	1
伊勢湾側と三河湾側の交流を望む	1
日本福祉大学と共生したまちづくりの展開（問題解決や地域活性化）	2
中高生の意見をまちづくりに活かす	1
米百俵の精神を基軸に施策すべきだと思う	1
若い人たちでも、兼業でも農業ができる環境整備	2
美浜町は農業・漁業を繁栄させ、地産地消を目指すべきだと思う	1
住民が安心して生活できれば人口減少にもストップがかけられるはず	1
一部の否定的な意見のみでなく、総合的に事物を判断する	1
まちの将来像	**件数**
誰もが住みやすいまちづくりをしていきたい	7
子どもたちがいつまでも美浜町に住み続けたいと思えるまちづくりを	2
家族という未来の形で美浜町の中での生活ができたら町は発展する	1
町の長所を生かして安心安全な暮らしが期待できる美浜町であって欲しい	1
行政をスリム化し、無駄をなくし、税金を安くして、低所得者でも住みやすい町	1
お金が無くても安心して住める町	1
誰もが協力しあえるまちづくりができればよいと思う	1

豊かな海の幸や新鮮な野菜を活用し、町外からの経済効果を得られるようにする	1
豊かな自然環境を残し、地産地消による「美浜」ブランドの確立	1
自然豊かで多世代がともに暮らす町	2
若い人たちが元気に活躍できる町、自然の美しい町を実現して欲しい	1
里山管理は将来の美浜町の自然との調和に必要だ	1
自然の恵みが生き、都会の人が息抜きできる町であって欲しい	1
予算に見合った（身の丈にあった）まちづくりを進める	2
合併も視野に入れて、周辺の巨大インフラを活かす立場に立つ	1
もう一度南知多町との合併を考える	1
隣接する市町村との連携を行う	1
町全体で考えるのではなく、各地区を発展させることで町全体を発展させる	1
美浜町独自の教育や福祉に力を入れればよいのではないか	1
新しい施策以上に、既存の良さを大切にしていって欲しい	2
その他	**件数**
アンケートが回答しにくい（大変だ）	4
アンケート結果から何か改善はされたのか（議論した内容の公開）	2
アンケートの重要度は順位付けした方がいいのではないか	1
アンケート回答は町内会に入っていない人には答えにくい設問だ	1
アンケートは、色々な人に聞いて欲しい	1
住民意見の収集方法を改める	1
アンケートは無記名調査でいいのか	1
一部の人だけが利益を得るのではなく、平等負担の社会にする	1
多くの意見に耳を傾けて欲しい	1
金のばら撒きを止めて欲しい	1
行政対応のスピードアップ	1
高齢者への感謝	1
住民税が高い（若い人は転出してしまうのではないか）	2
助成金目的の団体が多いので、町認定し大切な税金を使うのはいかがなものか	1
人口減少により、のどかな町から村に移行するのではないか	1
新聞記事の紹介	1
町内で何が起き、必要なのかＷＥＢ上で説明をして欲しい	1
住民にできることとできないことを説明する	1
これから、まちづくりについて考えてみたい	1

美浜町まちづくりアンケート

＜調査協力のお願い＞

平素は美浜町のまちづくりにご尽力、ご協力賜り、ありがとうございます。

このたび、美浜町では、今後の 12 年間にわたるまちづくりの基本的な方向を定める総合計画を改定することになりました。社会経済情勢の変化や町民の皆様の要望に、的確に応えながら、これからの時代にふさわしい計画策定を目指しております。

これからのまちづくりにおいては、町民の皆様一人ひとりのご意見を大切にしながら、行政と住民とが協働して取り組んでいくことが大切です。

そのため、町民の皆様の生活環境に対する評価や、まちづくりに対するお考えをお聞きするため、「美浜町まちづくりアンケート」を実施することになりました。

ご多忙中恐縮ですが、今後の町のさらなる発展のため、皆様方の率直なご意見をお寄せくださいますよう、お願いいたします。

平成 23 年 11 月

美浜町長　山下 治夫

この調査の対象者は、住民基本台帳を用いて、18 歳以上の住民の中から無作為に 2,100 名の方を選びました。調査は無記名で行い、調査結果は統計的に処理いたします。また、この調査の解析は、日本福祉大学福祉社会開発研究所まちづくり研究センターに委託して行います。

＜調査票の記入方法＞

○　郵送された宛名の方ご自身がお答えください。
○　質問文をよくお読みになり、該当する選択肢の番号を□の中にご記入ください。
　　一部の設問では、該当する選択肢の番号に○印をつけてください。
○　「その他」に該当する場合には(　　)内にその内容を具体的にお書きください。

＜調査票の提出方法＞

○　記入漏れがないか、今一度お確かめください。
○　同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、封をしてそのまま返送してください。
○　返送の締切は**１１月２８日（月）**です。

＜連絡先＞

ご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

美浜町役場　企画政策課　担当：坂本、中村
電話：82-1111（内線 227）　　FAX：82-4153
E-Mail：kikaku@town.aichi-mihama.lg.jp

まず、あなたご自身のことについてお尋ねします

問１　あなたの性別は？ ----------

1. 男性　　2. 女性

問２　あなたの年齢は？（平成23年11月1日現在の満年齢） ----------

1. 10歳代　　2. 20歳代　　3. 30歳代　　4. 40歳代
5. 50歳代　　6. 60歳代　　7. 70歳以上

問３　あなたのお住まいの地区（小学校区）は？ 地区がわからない方は、住所をご記入ください ----

1. 布土　　2. 河和　　3. 河和南部　　4. 野間　　5. 奥田　　6. 上野間
7. わからない（美浜町に続く大字名等：　　）

問４　あなたのご職業は？ ----------

1. 農業･漁業　　2. 会社員･公務員（事務系）　　3. 会社員･公務員（技術系）
4. 会社員･公務員（労務系）　　5. 自営業（商業･ｻｰﾋﾞｽ業）　　6. 自営業（製造業）
7. 専門職･教員等　　8. 家事専念　　9. 学生
10.無職　　11.その他（　　）

問５　問４で「10. 無職」以外の方にお尋ねします通勤(就業)先、通学先はどちらですか？ ----------

1. 自宅　　2. 自宅以外の美浜町内　　3. 常滑市　　4. 南知多町
5. 武豊町　　6. 半田市・東海市・大府市・知多市・阿久比町・東浦町
7. 名古屋市　　8. 愛知県内(1～7以外の県内)　　9. 愛知県外（　　都･道･府･県）

問６　あなたのお宅にどのような方が同居されていますか？ 該当する番号すべてに○印をつけてください

1. 3歳未満の乳幼児　　2. 3歳以上の未就学児（保育所など）　　3. 小学生・中学生
4. 高校生　　5. 大学・大学院生　　6. 65歳～74歳の高齢者
7. 75歳以上の高齢者　　8. 1～7以外の同居人がいる　　9. 一人世帯（同居人はいない）

問７　あなたの現在のお住まいの種類は？ ----------

1. 一戸建て（持ち家）　　2. マンションなど集合住宅（持ち家）　　3. 民間の賃貸一戸建て
4. 民間の賃貸マンションなどの集合住宅　　5. 町営住宅　　6. 会社の社宅
7. 独身寮・学生寮　　8. その他（　　）

問８　あなたの現在お住まいの地区での居住年数は？ ----------

1. 30年以上　　2. 20年～30年未満　　3. 10年～20年未満
4. 5年～10年未満　　5. 5年未満

問９　あなたは、いつから美浜町に住んでいますか？ ----------

1. 生まれたときからずっと →問11へ　　2. 美浜町に移り住んだ →問10へ
3. 美浜町で生まれたが、一旦、町外に移り住み、その後、美浜町に戻った →問10へ

問10　問９で「2. 美浜町に移り住んだ」、「3. 美浜町に戻ってきた」と回答された方にお聞きします

(1) あなたが美浜町に移り住んだきっかけは何ですか？ ---- □

1. 就職・就学・転勤・転職のため　2. 結婚のため　3. 親や子どもと同居するため
4. 暮らしやすいから　5. その他（　　）

(2) あなたがお住まいとして美浜町を選んだ理由は何ですか？ ---- □

1. 住宅の価格・賃料が手頃であったから　2. 豊かな自然環境が残されているから
3. 仕事場に近いから（農業の場合を含む）　4. 先祖伝来の土地や家があるから
5. 親戚や友人がいるから　6. 生活に便利だから
7. 子どもを育てるのに適しているから　8. 生涯学習が充実しているから
9. コミュニティ活動が充実しているから　10.その他（　　）

あなたがお住まいになっている地区の生活環境についてお聞きします

問11　あなたは美浜町の生活環境に対してどのような印象をお持ちですか？　各項目について、現状の満足度および、これからの施策の重要度について、それぞれ５段階評価で点数をお答えください

【これからの施策の重要度】 5. 非常に重要　4. ある程度重要　3. どちらともいえない
2. あまり重要ではない　1. 重要でない

【現状の満足度】 5. 非常に満足　4. ある程度満足　3. どちらともいえない
2. 少し不満　1. かなり不満

	現状の満足度	これからの施策の重要度
A　お住まいの地区の自然環境と快適性		
①　空気のきれいさ（大気汚染や悪臭）	□	□
②　近くにある川や池の水のきれいさ	□	□
③　伊勢湾や三河湾のきれいさ	□	□
④　町のきれいさ（不法投棄やポイ捨て）	□	□
⑤　町の静けさ（自動車や工場の騒音･振動）	□	□
⑥　生き物とふれあえる自然豊かな場所	□	□
⑦　まちなみとまわりの景観との調和	□	□
⑧　総合的に見た自分の地区の自然や快適性	□	□
B　お住まいの地区の利便性		
①　食料品などの日用品の買い物	□	□
②　家具や電化製品等の買い物	□	□
③　バスや電車などの交通の便	□	□

【これからの施策の重要度】 5. 非常に重要　4. ある程度重要　3. どちらともいえない
2. あまり重要ではない　1. 重要でない

【現状の満足度】 5. 非常に満足　4. ある程度満足　3. どちらともいえない
2. 少し不満　1. かなり不満

④ 病院や医院など医療施設		
⑤ 公民館など気軽に利用できる公共施設		
⑥ スポーツ等が気軽に親しめる施設や機会		
⑦ 公園の利用のしやすさ		
⑧ 総合的に見た、自分の地区の利便性		

C　お住まいの地区の安全性

① 安全性（土砂くずれの危険性）		
② 安全性（高潮や津波の危険性）		
③ 安全性（生活道路での交通事故）		
④ 安全性（幹線道路での交通事故）		
⑤ 安全性（工場での爆発や事故の危険性）		
⑥ 夜間の一人歩きの安全性		
⑦ 子どもが公園や広場で遊ぶ時の安全性		
⑧ 総合的に見た、自分の地区の安全性		

D　お住まいの地区のコミュニティや文化性

① 祭りや盆踊りなどの伝統的な催し		
② 地区の活動への住民の参加		
③ 神社やお寺など歴史を感じさせる場所		
④ 地区のシンボルとなる場所		
⑤ 近所つきあい（助け合いなど）		
⑥ 町内のまとめ役となるリーダー（の存在）		
⑦ 女性の地域づくりへの参加のしやすさ		
⑧ 総合的に見た、自分の地区の文化性		

E　自然環境・快適性・利便性・安全性・文化性を総合して、お住まいの地区の生活環境への満足度

問12　お住まいの地区や美浜町への愛着についてどうお感じですか？
５段階評価で点数をお答えください

5. 非常にそう思う　4. ある程度そう思う　3. どちらともいえない
2. あまり思わない　1. まったく思わない

① 居住地区の一員であることに誇りを感じる ----------
② 居住地区に愛着を感じる ----------
③ 居住地区の人たちと一体であると感じる ----------
④ 美浜町の一員だという実感がある ----------
⑤ 美浜町全体に愛着を感じる ----------

問13　あなたは、これからも美浜町に住み続けたいと思いますか？ ----------

1. できるだけ住み続けたい
2. 当分住み続けたい　→ 問 14 へお進みください。
3. できれば転居したい
4. 住みにくいので近々転居する予定　→ 問 15 へお進みください。
5. 仕事や学校の関係で転居する予定　→ 問 16 へお進みください。

問14　問13で「1. できるだけ住み続けたい」、「2. 当分住み続けたい」と回答された方にお尋ねしますその主な理由を２つ以内で選んでください ----------

1. 先祖伝来の土地や家があるから
2. 永年住み続け、愛着があるから
3. 親戚や友人がいるから
4. 豊かな自然環境が残されているから
5. 仕事場に近いから（農業の場合を含む）
6. 生活に便利だから
7. 子どもを育てるのに適しているから
8. 通勤通学に便利だから
9. 生涯学習が充実しているから
10. 文化活動が充実しているから
11. コミュニティ活動が充実しているから
12. その他（　　）

問15　問13で「3. できれば転居したい」、「4. 住みにくいので近々転居する予定である」と回答された方にお尋ねしますその主な理由を２つ以内で選んでください ----------

1. 自分の土地や家があるわけではないから
2. 生まれ育ったところではないから
3. 特に親しい友人などもいないから
4. 生活が不便だから
5. 子育てに適していないと感じるから
6. 通勤や通学に不便だから
7. 人間関係が煩わしいから
8. 働く場が少ないから
9. その他（　　）

地域の防災力についてお尋ねします

問16　地震や津波に対する不安はありますか？ ---------- □

1. 差し迫った問題であり不安が大きい　　2. 漠然とした不安がある
3. あまり現実のこととしては考えていない　　4. ほとんど気にしていない
5. その他（　　）

問17　あなたは災害に備えて、次のものを購入･準備していますか？
該当する番号すべてに○印をつけてください

1. 非常食　　2. 懐中電灯　　3. ろうそく　　4. 携帯ラジオ　　5. 救急箱
6. カセットコンロ　　7. ペットボトルなどの飲み水　　8. トイレ用雑用水
9. ティッシュペーパー　　10. その他（　　）

問18　あなたは災害に備えて次の行動をとっていますか？　該当する番号すべてに○印をつけてください

1. 近くの避難所の確認　　2. 避難所までの避難ルート確認
3. 家族間での連絡方法の確認　　4. 非常時に持ち出すものをまとめる
5. 家具などの転倒防止　　6. ガラスなどの飛散防止
7. 靴などを枕元に置く　　8. 近所との声掛け
9. その他（　　）

問19　地震や洪水などの災害時に、ご近所同士で助け合うことができますか？ ---------- □

1. 十分に助け合うことができる　　2. ある程度は期待できる
3. あまり期待できない　　4. ほとんど期待できない
5. その他（　　）

問20　地震などの大きな災害が起きることを想定した場合、事前に何をしておくべきでしょうか？
最も重要と思われることを１つだけ選んでください ---------- □

1. 地域住民が協力して備えることが重要　　2. 行政が中心となった対策が重要である
3. 地域住民と行政との分担が重要　　4. よくわからない
5. その他（　　）

問21　今後特に重要だと思われる地震・津波対策を２つ以内で選んでください ---------- □ □

1. 津波による浸水被害の予想図　　2. 防災教育の充実　　3. 避難経路の案内板
4. 消防設備の充実　　5. 非常用食料の備蓄　　6. 緊急時の放送設備
7. 避難誘導方法の確立や再確認　　8. 大規模な防潮堤などの防災施設
9. その他（　　）

あなたのまちづくりに対する意識についてお尋ねします

問22　これからのまちづくりは、誰が中心となって担っていくべきとお考えですか？ ---------- □

1. 住民一人ひとりが積極的にまちづくりに参加して、活動していくべき
2. 地区のリーダーが中心となってみんなを引っ張っていくべき
3. 行政が、住民の意見をよく聞き、住民と役割分担をしながら進めていくべき
4. まちづくりは、行政が主体的に責任を持って進めていくべき
5. よくわからない
6. その他（　　）

問23　まちづくりのための資源（予算や人）の配分については、どのようにお考えですか？ ---------- □

1. 各地区の意欲に応じ、競争的に配分するのがよい
2. 各地区が平等になるように配分するのがよい
3. 各地区の必要度に応じて配分するのがよい
4. 各地区の居住者数に応じて配分するのがよい
5. 従来通りでよい
6. その他（　　）

問24　あなたの地域活動への参加についてお尋ねします該当する番号をお書きください

5. 積極的に参加	4. 可能な限り参加	3. 付き合い程度には参加
2. 時間や機会がない	1. 関心がない	

↓

① 自治会・町内会・老人会などの地縁的な活動 ---------- □
② スポーツやジョギング、ウォーキングなど体を動かす活動 ---------- □
③ 地域での趣味的な文化活動 ---------- □
④ 心育館や地区公民館の学習講座 ---------- □
⑤ ボランティアや市民活動（清掃や美化、里山再生など） ---------- □
⑥ ボランティアや市民活動（高齢者支援など） ---------- □
⑦ ボランティアや市民活動（子どもの見守りなど） ---------- □
⑧ ボランティアや市民活動（まちづくりや地域の活性化） ---------- □
⑨ その他（具体的に：　　） ---------- □

問25　お住まいの地区のまちづくりについて、どのようにお考えですか？
該当する番号をお書きください

5. そう思う	4. ある程度そう思う	3. どちらともいえない
2. あまり思わない	1. まったくそう思わない	

① まちづくりを通して、この地区を魅力的にしていく責任を感じている ----------
② まちづくりの世話役を頼まれたら引き受けてもよいと思う ----------
③ まちづくり活動に積極的に関わるのは煩わしい ----------
④ まちづくりを行うのは、主として行政の責任である ----------
⑤ まちづくりを行うのは、主として住民の責任である ----------
⑥ 行政は、もっと積極的にまちづくりを推進するべきである ----------
⑦ 住民は、もっと主体的にまちづくりに参加するべきである ----------
⑧ 行政は、まちづくりを進めるのに必要な資金や人材を豊富に抱えている ----------
⑨ まちづくりに関して、住民が努力すればそれだけ成果が上がる ----------
⑩ 他の地区よりも優先して生活環境の整備をしてほしい ----------
⑪ 自分の居住地区よりも遅れている地区を優先してもよい ----------
⑫ 自分の居住地区のまちづくりのために寄付や援助を求められれば協力する ----------
⑬ 美浜町全体のまちづくりのために寄付や援助を求められれば協力する ----------

これからの子育て支援のあり方についてお尋ねします

問26　子どもを安心して育てていくために、今後、特に重要なことは何ですか？
該当するものを２つ以内で選んでください ----------

1. 家庭が責任を持つこと
2. 地域ぐるみで助け合いや応援
3. お母さん同士の交流や情報交換
4. 子育て支援のＮＰＯなどによる活動
5. 行政による子育て支援施策の充実
6. 企業による子育て支援対策の充実
7. 家庭・地域・行政・企業などの連携
8. その他（　　）

高齢化社会に対する認識や対応すべき課題についてお尋ねします

問27　あなたが高齢者になった時（なる時）、何に対して特に不安を感じますか？
あてはまるものを２つ以内で選んでください ----------

1. 生活費の確保、年金の支給状況など経済的なこと
2. 働く場所
3. 世話・介護をしてくれる施設や人
4. 生きがい
5. 趣味の活動をできる機会や場所
6. 自分や配偶者の健康
7. 夫や妻に先立たれること
8. なんとなく不安
9. 話し友達が少なくなる
10. その他（　　）
11. 特に不安はない

問28　あなたご自身は、ご家族の方の介護、介助を経験されたことがありますか？ ----------

1. 現在、高齢者などの介護、介助を行っている
2. かつて、高齢者などの介護、介助をしたことがある
3. 特に介護、介助の経験はない

問29　あなたが高齢になられる（なられた）時、ご自身の介護についてどうお考えですか？
あなたのお考えに近いものを２つ以内で選んでください ----------

1. 長男家族が面倒をみるべきだ
2. 家族や親戚など身内の誰かに面倒をみてもらいたい
3. 自宅でホームヘルパーなどのサービスを受けながら家族に面倒をみてもらいたい
4. 家族に負担をかけないように、デイサービスやショートステイを利用したい
5. 介護が必要になれば、老人保健施設や特別養護老人ホームなどの施設に入居したい
6. 介護が必要になれば、介護付の高齢者向けマンションに入居したい
7. その他（　　）

問30　これからの高齢者対策として、どのような分野が特に重要と思いますか？
あてはまるものを３つ以内で選んでください ----------

1. 健康づくりのための活動
2. 老人クラブなど、高齢者の仲間づくり
3. 高齢者同士での交流や支援
4. 老人医療費の助成など経済的な支援
5. 多世代が交流できる憩いの場づくり
6. 高齢者が参加しやすい生涯学習講座
7. 気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション
8. ボランティア活動の活発化
9. シルバー人材などを利用した活動場所
10. 企業による再雇用制度などの充実
11. 健康や福祉サービスに関する相談窓口
12. 保健師や看護師による巡回相談の充実
13. 特別養護老人ホームなどの入所施設の整備充実
14. その他（　　）

観光振興の方策について、あなたのお考えをお尋ねします

問31　観光の振興についてはどうお考えですか？
該当するものを２つ以内で選んでください ----------

1. 観光資源を生かした施設の整備を推進する
2. 観光拠点を相互に連係させ、ネットワーク化を図る
3. 自然を生かした体験型・滞在型の観光資源の整備を図る
4. 特産品を開発し、観光振興だけでなく経済の相乗効果を図る
5. まずは広報・ＰＲ活動を推進し、観光拠点の宣伝を広く図る
6. 現状のままでよい
7. その他（　　）

文化活動・スポーツ・レクリエーションなどの生涯学習活動についてお尋ねします

問32　生涯学習の振興のために、行政はどのような役割を果たすべきだとお考えですか？
該当するものを３つ以内で選んでください ----------

1. 活動できる施設を整備する
2. 講師や指導者を招いたり、養成したりする
3. 幅広いニーズに応えられるよう、初心者から高度な内容まで多様な内容を用意する
4. 利用料をできるだけ軽減したり、利用時間を延長するなど利便性を向上させる
5. 施設の予約をしやすくする
6. 託児所の整備や講座に託児サービスなどを併設し､女性が参加しやすい環境をつくる
7. 学校の余裕教室やグラウンド・体育館等、既存施設を活用する
8. 図書館や各種生涯学習講座などをもっと利用しやすくする
9. 身につけた技術や知識などを、子どもの指導やボランティア等に生かせる場を整備する
10. 気軽に相談できる窓口の整備や情報提供を充実する
11. 同じ興味や趣味を持った仲間づくりを支援する
12. その他（具体的に：　　）

これからの美浜町のまちづくりについてお尋ねします

問33　5年ごとに行われる国勢調査結果によれば、平成22年には美浜町の人口が初めて減少になりました我が国全体が人口減少時代を迎える中で、今後、町の人口とまちづくりはどう考えていけばよいと思われますか？　もっとも近い考え方を１つだけ選んでください ----------

1. 人口減少は国全体の傾向だから、人口減少しても元気なまちをめざすべきだ
2. 人口が減ると町の活気が失われるので、積極的に人口を増やす対策を講じるべきだ
3. 人口の増減を気にするよりも、住みやすいまちづくりを進めるべきだ
4. その他（　　）

問34　今後とも町の活力を維持し、大幅に人口が減少することがないようにするためには、どのような対策が特に重要だと思われますか？
該当するものを３つ以内で選んでください ----------

1. 工場などの企業誘致によって、町内での雇用の場を積極的に確保する
2. 観光に力を入れ、関連する産業の振興を通じて、雇用の場を確保する
3. 駅前の再開発を進め、にぎやかなまちづくりをめざす
4. 医療施設の整備や福祉サービスの充実を通じて、高齢者が安心して暮らせるまちをめざす
5. 安全・安心して子育てができる環境を整備する
6. 子どもに対する教育に力を入れる
7. 安全な生活道路の整備、公共交通（バス）の充実を進め、便利なまちをめざす
8. 新たな住宅地を整備し、町外からの転入を積極的に進める
9. 町外から新規就農者を積極的に受け入れられるような体制を整備する
10. このままの町でよく、特に新たな施策は必要ない
11. その他（　　）

問35　あなたは、美浜町のこれからの町の姿として、どのようなイメージがふさわしいとお考えですか？　該当するものを３つ以内で選んでください ----------

1. 穏やかな自然と共生したまち
2. 公共施設や道路などが整備された機能的なまち
3. 買い物や医療など日常生活の利便性が高いまち
4. 農業や水産業が元気なまち
5. 高齢者が生き生きと暮らせるまち
6. 子どもを安心して育てることのできるまち
7. 地域の人々の交流やコミュニケーションが盛んなまち
8. 国際交流が盛んなまち
9. 地域の歴史や伝統、文化を大切にしたまち
10. 積極的に住宅地整備を進めるまち
11. 観光・レクリエーション施設を整備し、多くの来訪者を迎えるまち
12. 生涯学習やスポーツ活動の盛んなまち
13. 自然エネルギーの活用や廃棄物のリサイクルなどを通じた循環型のまち
14. 犯罪や交通事故の心配のないまち
15. 津波による浸水や高潮の心配のないまち
16. 財政基盤がしっかりしたまち
17. 行政と町民とが役割分担をしながら、共にまちづくりを進めるまち
18. その他（　　）

裏面にもご記入ください。

今後の美浜町のまちづくりに対してご意見があれば、ご自由にお書きください

※長時間にわたり調査にご協力いただき、誠にありがとうございました
記入漏れがないか、今一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、
１１月２８日（月）までにご返送ください